

# いななき

第 13 号

— 井上恒春前緑鞍会会長を偲んで —



1992

青山学院大学体育会馬術部・緑鞍会

目次

第一部

巻頭言……………羽坂勇司（青山学院大学理事長・昭16卒）……………1

部長挨拶……………高森 寛（国際政治経済学部教授）……………3

新緑鞍会々長挨拶……………青木 昇（昭16卒）……………3

監督挨拶……………六平 潔（昭46卒）……………4

コーチへのインタビュー……………田中一弘……………4

第二部

井上恒春前緑鞍会々長を偲んで……………市原昭十郎（昭32卒）……………7

井上会長を偲ぶ…………………………9

城戸俊三先生のごとども……………井上恒春……………11

四十二年前の馬術部……………井上恒着……………14

新城直樹（昭28卒）…………………………14

赤嶋たみ子（昭33短卒）…………………………14

張間睦途（昭35卒）…………………………15

豎村美恵子（昭35卒）…………………………16

市原満佐子…………………………16

第三部

思い出がいつぱい（OB寄稿）…………………………19

相良敏夫（大15卒）…………………………19

阿部雄三（昭18卒）…………………………20

秋元国松（昭32卒）…………………………20

第四部

現役より…………………………29

新主将挨拶…………………………29

韓国・モンゴル遠征報告…………………………32

部員紹介…………………………40

馬匹紹介…………………………50

試合結果報告…………………………52

活動報告…………………………55

騎乗日誌より…………………………59

編集後記…………………………59

三谷 稔（昭44年）…………………………20

山口（佐倉）有美（昭和48卒）…………………………21

吉田（円山）えり子（昭50卒）…………………………21

加藤和代（昭54卒）…………………………22

松本美紀（昭60卒）…………………………22

福原美里（昭31卒）…………………………23

## 徒然に、馬“想う

羽坂 勇司

「魂志倭人伝」(西暦一八四年頃)の中には、日本に牛馬はいないと記されているのですが、日本各地の貝塚などから馬の骨が発見され、現在では縄文時代(西暦前二〇〇〇年頃)には、既に、日本各地に馬が生息していたことが分かっています。しかし、それらは狩猟の対象となった馬であり、多分、家畜の馬ではなかったものと思われています。

明治三十九年の「馬改第一次三十年計画」以後、西欧種による馬種改良がなされるようになってきましたが、それ以前の日本馬は体高二三六センチメートル(四尺五寸)以内だったそうですから、鶉越え(ひよどりこえ)も、宇治川の先陣の生吐(いけづき)磨墨(するすみ)もそのよつな馬でなされたのでしょうか。事実、東大人類学教室による鎌倉材木座での発掘調査がこのことを証明しています。

さて、この稿を書くにあたって、手元の広辞林で「家畜」という項を引いたところ、「人間に飼養される鳥獣」とあり、従って「家畜化」という言葉を、人間にとってより都合よく動物が飼育されることと考えると、例えば、野生の豚に雨風を凌ぐ舎を建て、清潔な寝場所と適当な運動場を用意し、水や食物の心配もさせない。更に、配偶者を探し与え、子供が出来れば出産を手伝い、大きくなれば適当に他に移す。これ総て人間の生活に寄与させないがため、人間が野生動物に施した術(すべ)といえます。翻って人間自身のことを考えてみますと、人間の場合、自ら手段を講じて自分の快適性を求めること

ろが、家畜と異なるところというふうな思いがいたします。しかも人間はその快適性を求めるが故に、時として戦争を引き起こしたり、地球資源を浪費して環境破壊を招くようなことを行っている。

自分達の生活に赤信号がついているのにも拘らず、一度獲得した快適性を仲々捨てることのできない。これが人間であるが故の家畜化現象の一つであるとするならば、何らかの方法をもって急ブレーキをかけないと、人類は近い将来、自らの手により滅亡の道を辿ることになるでしょう。

馬が好きになる理由の一つに、「その瞳が澄んで美しいから」と述べられる方がおられます。私もその一人ですが、目の濁った馬が病気であることを、諸兄姉は経験として知っているものと思います。

地球という馬の目も、永遠に濁って欲しくないものです。(青山学院理事長・昭16年卒)

## 馬を可愛がる心と人間性

馬術部部长 高森 寛

馬術部の部長として、この十年余りの間、緑鞍会の数多くの方々に接することができまして、私にとつて、楽しい忘れ得ない機会でした。心の暖かい人間性豊かな方々ばかりで、馬術部の現役の学生たちをいろいろと支援してくださり、それは学生達にとつても大きな心の支えになり、励ましとなっております。

私は、馬術部の学生たちが馬とともに生活する姿に触れ、緑鞍会の方々と接することを通して、馬術の世界の楽しみとその奥の深さが、私なりに分かつてきました。馬術をする人たちに共通しているのは、まず何よりも、馬を可愛がる優しい心です。馬と心をかよわせ、対話をしながら、訓練し、鍛え、苦勞を共にして、育てあげて行く姿に感銘を覚えます。馬に対してだけでなく、仲間との間でも、思いやりの心、いたわり的心を育み、担いあつて切磋琢磨し、共に成長していく、そんな世界のように見えます。

〈国際政治経済学部教授〉

## 緑鞍会会長就任に当つて

緑鞍会会長 青木 昇

馬術部七十年近くの歴史を振り返つてみて、前緑鞍会々長故井上恒春氏が創立の努力をされた大正十二、三年頃は、揺籃期として幾多の苦難を乗り越えられたものと思う。その成果は昭和四年に卒業された元緑鞍会々長、後に総監督として現役及びコーチ陣を教育され、馬の質的改善に心血を注がれた故青木真次氏の時代に引き継がれ、氏は関東選手として多大な功績を部史に残されたのである。

その後は、満州事変、支那事変に引き続き第二次世界大戦と昭和二十年の終戦迄は慌だしく明け暮れた。戦後暫らくは食糧事情の悪い中一頭二頭と順次自馬を増加出来る様になつたが、馬匹の改善迄はとも手が廻らなかつた。青木真次氏が米國より帰國せられ、馬術部の再建に尽力されてから、馬匹も一変し幾多の試合で良い成績を納めることが出来る様になつた。

名監督青木真次氏が故人となられ、又昨年は部創立の功勞者である井上恒春氏も亡き人となられ、急速私が緑鞍会々長をお引き受けすることとなつた。私は前記両先輩の様な功勞者でもなく、唯昭和二十二年に復員帰還して今日迄関東に在住した為、その間現役や若いOB・OGの人たちと接するのが楽しく、気が付つてみると四十五年の歳月が流れて来た次第である。

今後は年代は違つても同じ苦勞を青春の一時期を分ち合つた緑鞍会々員の一層の親睦と、現役の後援を計り、諸先輩の残された業績を次の世代の若い優秀な人々に譲る迄の懸け橋として、馬術部や緑鞍会の歴史の一齣の役割を果せれば幸と思つ。

緑鞍会話兄姉のご指導ご協力を切にお願いする次第である。

(昭16年卒)

## 監督挨拶

馬術部監督 六平 潔

緑鞍会会員の皆様、お元気でご活躍の事と拝察致します。平素より、現役馬術部の為にご指導、ご援助を頂き有難く厚くお礼申し上げます。

私も監督をさせて頂くようになってから、早や五年が過ぎようとしています。前任の張問先輩から引き継ぎをしました事も、つい昨日のように思われます。この間、青山学院馬術部はどうあるべきか、現役はどうあるべきか、監督は何をすべきか等々、考え、悩みながらやつて参りましたが、未だにあれこれと反省する事ばかりの日々を過ごしています。

一方、現役は練習、バイト、勉強?等で超忙しく、睡眠不足に悩みながらも、綱島においても馬事公苑においても、いきいきと活動しており、体育会の規律等の伝統を維持しつつ、青学生らしい明るさ、熱気、笑顔あふれる部生活を見るたびに、監督としてほっとする気が致します。

昨年の戦績ですが、東都大会、馬場馬術競技優勝、女子障害飛越競技優勝、ユドラ号記念馬場馬術競技優勝、全日本学生選手権入賞、全日本学生馬場馬術競技及び障害飛越競技団体入賞など、ある程度の戦績を残

す事ができ、充実した一年となりました。

また、四年の主将森本を全日本学生の代表選手として、モンゴル国際馬術大会(団体三位)及び、日韓馬術大会へと海外遠征させる事ができ、本人のみならず、部としても励みとする事ができました。なおその際、多数の緑鞍会々員の方々から寄附を頂きました事、お礼申し上げます。来季以降も、チャンスがあれば部員にどしどし海外遠征をさせたいと考えています。

今後とも、緑鞍会、大学当局、現役が一体となった形で、馬術部がより発展できますように頑張っていこうと思つておりますので、よろしくご指導の程お願い申し上げます。(昭17年卒)

## コーチへのインタビュー

コーチ 田中一弘

現役 永年、我が部のコーチをしていただいている田中さんから見て我々学生の特徴とはどんなものですか?

田中 特徴にも良い特徴と悪い特徴があるけど、良い特徴として挙げられるのは、他校の部員と比べて、性格がすごくいいことと、ちゃんとしたしつけができていくことですね。このしつけというのは、やはり各個人の御両親によるもの、自分自身によるものそしてクラブ活動を通じての監督、コーチによるものを言つのだと思います。また欠点を挙げると、部員一人一人の性格、しつけはともいいのですが、いざという時に今一つハキがない、ガツツがないという事だと思えます。これらの事は、僕がコーチに

なつてからずーつと言っていることですね。

現役 では次に、厩舎管理、馬管理について田中さんのヨーロッパでの経験などを踏まえて、今青山が改善すべき点などをきかせて下さい。

田中 一番簡単に考えると、良い厩舎というのはオールシーズン過ごしやすいことを言います。要するに日本の場合は、冬暖かく、夏涼しくということですね。しかし、建物でカバー出来ない点はやはり人間がしてあげるべきですね。例えば夏は扇風機やホースで水浴びや、冬はすき間風を防ぎ、馬着を沢山着せるなどのことを言いますね。ヨーロッパなどを見てても覆馬場と、ウォーキングマシーンがあつた方が良いと思います。覆馬場の必要性は外で乗れない様な気候の時に *the good* で乗れるということや、又新馬

及び新人調教にも非常に良い影響があります。しかし、やはり日本ではコスト面と地震の面で簡単には作れない状況ですね。またウォーキングマシーンとは、丸馬場の様な形をした機械に *walk* 頭の馬をつないで、右回り半分、左回り半分と、人間が設置して馬の運動をする機械で、新製品の物は速歩、駆歩までできるものもあります。私は常歩ができるものがあれば十分だと思いますね。ウォーキングマシーンは元気のいい馬、鞍のつけられない息病気あがりの馬にはもちろん、練習前後の沈黙運動が少なすぎる為におこる馬の故障の予防にも役に立つと思いますね。しかし、学生ではそういった設備を整えることは難しいので現状の中でいかに馬をよくするかが、学生の努力、工夫次第で変わってくると思います。ただでさえ学校の馬は乗馬クラブの馬とは違って練習馬兼試合馬という二役をこなす為、一頭一頭にかかる負担やスト

レスがたまりがちなので、厩舎内では快適に過ごせるように、人間が気を配ってあげなければならぬと思いますね。

現役 次に田中さんがどんなことを考えて馬に乗っていらっしゃるのか教えてください。

田中 初めて乗る馬でなければ、その馬の特徴をまず考えます。例えば、重い、軽い、口が固い、障害に向かうと重くなる、軽くなるなどの特徴。を頭に入れ、又馬や人間は機械ではないから、その日その日でコンディションも違うことも考えて乗ります。例えば馬事公苑で試合の下乗りをする時は馬の苦しい所を取ることに普段の二倍も三倍も気をつかいますね。それが、五分、五分後に競技に出る選手のために馬の最大の能力をひきだすことに繋がってゆきます。下乗りにしても *walk* (フラットワーク) にしても、まず馬の苦しい所をとつてやるように心がけていますが、一番してはいけないことは、力でなんとかすることか、人間がカーツとなり感情的に馬にあたつてしまうことです。あくまでも馬に教えてやり、納得させる事が必要です。

現役 では最後に田中さんが青学のコーチになられてからの思い出とこのメンバーでの今年の目標をお聞かせ下さい。

田中 えーと(しばらく考え込む)思い出というと楽しい思い出とつらい思い出がありますが楽しい思い出は尽きないものですが、それがすべての思い出という訳ではありませんけれど、青学の為に功献してくれた馬にもかわらず、八ブニングによりその生涯を終えてしまった馬達のことを思い出しますね。もちろん、馬も生き物ですから寿命があるものですが、コーチとしてもう少しその馬にしてあげられることがあつたのではないかと思うと、

残念なことだったと思います。たとえば青雄、青妃（ミミー）、BLUE・HUNTER（アビ）、青遠がそうですね。

今年の目標としては去年小国、森本たちの時の目標を何事に関してもすべて終った後にもう一つの追及をしてみること、としたけれども今年は最上級生が男、女、計、人とバランスのとれた優秀なメンバーがそろったので、もう一つの追及をもう二つにしてみたいと思う。部員一人一人がすべての事に対し向上心を持って、是非良いものを残していつてほしいと思います。



# 井上恒春前縁鞍会々長を偲んで

## 故井上恒春氏 略 歴

明治36年10月1日 台湾省に生まれる

大正13年 青山学院旧制高等学部実業科卒

同 年 シエル石油(株)入社 戦後の石油公団出向をは  
さんで、約40年間同社に勤務。機械油販売部長、

三共油化工業(株)常務取締役など歴任。潤滑油

一筋に業界の発展に貢献される。

昭和47年 三共商事(株)を創立 代表取締役就任

平成3年5月14日 永眠 享年88歳



青山学院馬術部創立時の主将であり、昭和48年から馬術部員会  
縁鞍会々長として、後輩の助成に貢献いただいた。

平成三年五月十四日、緑鞍会々長井上恒春氏が逝去された。享年八十八才であった。前日までお元気であられたが、朝ベッドの中で眠ったまま亡くなっておられたとのこと、まさに大往生であった。告別式は十七日、菩提寺である文京区の養源寺で、多数の会葬の申しめやかにいとなまれた。

同氏は大正十三年旧制高等学部卒の品であり、大正十一年馬術部が倶楽部として発足したときの主将である。創部七十年を迎える馬術部の生みの親であられた。昭和四十八年より馬術部OB会々長への就任をお願いし、実に十八年間会長としてご指導をいただいた。

創部時の部員は高等学部十三名、中学部七名位のメンバーで、今のNHKのある場所にあつた井上乘馬クラブや、習志野の騎兵連隊が練習場であつた。馬術部は馬という生き物を飼育し、調教し、試合に臨むスポーツなので、現役部員は練習や試合のみならず、馬の飼育に二十四時間気を配る必要がある。このため昔から、OB会により物心共に援助して頂いた伝統があり、現在のOBも学生時代先輩OBから受けたご恩返しのご気持ちで、現役への助成活動を続けている。殊に故井上会長は馬術部の創立者であり、常にOBであられたわけであるが、最近まで時間がゆるすと監督や、現役の指導にあたる若手OBを食事に誘われ、励まして下さった。会長をお願いして後は、六本木の自宅ビルの一室を緑鞍会事務所として開放され、夕方仕事が終わってから集まり馬術部の助成のことで打ち合わせする戦後卒のOBを暖かく見守って下さった。

また同氏は英語が堪能であられたことから、大正十三年卒業してからシエル石油に勤務され、本社のある英国との交流が長く、戦後仕込みで

ない、古い伝統を重んじる本当の紳士であられた。本場じこみのゴルフアームでもあり、OB会開催のゴルフ大会では、特注の「物干し竿」と呼ばれるウッドで若い者をオーバードライブされるロングヒッターであられた。七十年代後半の頃80ちよつとでラウンドされていた先輩は、エイジシユーター（ゴルフのスコアが年齢より少ない数でラウンドできること）をねらつておられたが、八十歳を境としてさしものロングヒッターも腰がまわらなくなられ、我々も淋しく感じたものであつた。数年前六本木から広尾に転居されてからはゴルフの方もだんだんとご無沙汰され、電話での会話も少し不便になられたので、筆談等で会話させて頂くこのころであつた。

OB会の新幹事長に就任した稲熊氏（昭和41年卒）が亡くなられる一週間前に会長宅を訪問し、OB会で会長の米寿のお祝い会を開きたい旨ご相談し上げたところ、大変喜んでおられたという。またその折、近々本年の新入部員歓迎コンパを開催することをお話したところ、「自分も行きたいが耳が不自由だから、現役に何か食べものでも」と、ご寄付を頂いたという。亡くなられて七日後の五月二十日に開かれた新入部員歓迎会の席上これを披露し、参加者全員で黙祷を捧げた。

最後に昭和五十一年五月発行の馬術部機関誌「いななき」11号と、昭和三十九年「いななき」に寄稿された一文をもって故井上会長を偲びたい。先輩が七十年代、まだまだお元気な頃であつた。

城戸先生、阿部先生もすでに故人であるが、騎兵隊出身で、馬術部のコーチをしていただいた。

井上先輩は、真に騎士道精神あふれる紳士であられた。

（昭和83年卒 市原昭十郎）

## 城戸俊三先生のことごと

井上 恒春

（昭和51年「いななき」より）

悠々八十八才の米寿をむかえられ、遊佐先生亡き後わが国馬術の最高峰として今年もモントリオールオリンピック選手の指導をされている城戸先生。又われわれの総会に度々お見えになったり、折にふれ網島まで来られて私達に馬術の真髄を教えて下さる緑鞍会名誉会長の城戸先生を今更ご紹介するまでもないことですが、ごく若い人連のためにあえて、「いななき」のページをかりることにしました。

先生が昭和七年（一九三二）ロスアンゼルスでの第十回オリンピックに出場された時の実話が小学校の国語の教科書に載っているだけでなく、当時このことに感動した米国人によつて、記念の碑が建てられ、今でもカリフォルニア州リヴァサイド市の公園に立派に飾られているということを知ってもらいたいです。

先生はたいそう謙遜な方で、さわがれるのがお嫌いですから、多くの功績や美談もいつしか埋もれがちなのが惜しめます。けれどもその埋もれた種が今年には日本で芽が出て、外国に育つて、そして何年かたつて又日本で花が咲くにちがいないことを信じています。

昭和二十七年七月三十日

文部省検定済 小学校国語科用 小学校国語 五年上

勝利をすてて



これは、二十年余り前、昭和七年の話です。ロスアンゼルスに開かれた第十回オリンピック大会は、今、

たけなわでした。その日は馬術競技が行なわれる日で、全世界の名選手たちが、美しいわざをきそつのです。

わが国も、この競技に城戸俊三選手を送っていました。城戸選手は、当時、日本の馬術界で指おりの人だったのです。

競技の火ぶたは切られました。何万の目がいつせいに選手たちこそがれました。

百メートル、二百メートル……土けむりをあげてかけて行く馬と人に、日ざしはさんと照りそそいでいました。

わが城戸選手のわざは、その中でもひとときわかがやいていました。人と馬とが一体になって、まるで一つの生き物がかけて行くように見えました。しょうがいごとに、いく人かの選手が失敗して、つぎつぎに減点されましたが、城戸選手は、ゆうゆうと飛びこえ、通りぬけて行きました。日本の入賞への期待は、かなえられるかと思われました。

ところが、そのうちに、見物人の聞から、小さなざわめきがおこり、水の輪のように伝わっていきました。城戸選手の馬が、しだいにつかれてきたようです。

「たのむぞ、たのむぞ」

見物の中でも、日本人たちは、気が気ではありません。手にあせをにぎって、城戸選手と愛馬のすがたをみつめていました。馬はますます苦しうにあえいでいます。しかし、さすがは城戸選手、その馬を、よく乗りこなして行きました。

いよいよ最後のしょうがいにかかりました。これ一つこなせ

ば、勝利は確実と思われました。

「最後だ。がんばれよ」

ひたすら勝利を琴つ見物の日本人たちは、もう、いても立つてもいらねず、手をふり、足を鳴らし、けんめいにおうえんしました。

けれども、この時、馬はもう、まっ白にあわをふき、つかれきつたようでした。でも、つかれたとはいえ、この馬も、城戸選手が長い間かわいがってきた名馬です。ひとむち強く当てれば、なんとしても、この最後のしょうがいをとっぱしたにちがいありません。

しかし、城戸選手は、むちを当てませんでした。そうして、じっと、愛馬のようすを見ていましたが、つかれきつた馬は、しょうがいのそばまで来ると、そこで力つきて、びたりと、止まってしまいました。

城戸選手は、だまって馬からおりました。そして、トラックの外へ、静かに馬を引いて行くと、やさしくその首をたたいてやりました。ちょうど、愛するわが子の、病気のまくらもとにいる母のようなまなざしを向けながら。

馬もわびるように、鼻づらを、力なく城戸選手のかたにすり寄せました。

見物人はいつせいに、はくしゅを送って勝利をすてて馬をいたわった、この真の勇者をたたえました。

私は〈写真〉の碑文の最後の

" HE HEARD THE LOW VOICE OF MERCY

NOT THE LOUD ACCLAIM OF GLORY

を読んでいるうちに胸がジーンとしてきます。

また思い出されるのは一昨年母校百周年記念と偶然にも時を同じく達成された馬術部の優勝記念の学校との合同祭が行われた際、大勢の来賓を前にして城戸先生が現役に対してたつた一言の祝詞を下さつた。

それは、「皆さん、優勝ほんとおめでとう。けれども」この裏に阿部先生（当時の馬術部コーチ）のいることを忘れてはいけません。阿部先生が青学にいたということは皆さんの大変な仕合わせです。」と。

それにつけても、私達が母校で培われた「一粒の麦」の教えを思い出すのです。

\* \* \*

## 四十二年前の馬術部

井上 恒春

〈昭和39年「いななき」より〉

今から四十年以上も前のことですから、現役の部員の皆様はまだこの地球上に存在していない頃の話です。従って私自身の記憶もおぼつかなく、話が誤って前後するかもしれません。

私達が馬術部（或いは乗馬倶楽部と称していたかもしれませんが）として何とかまとまつた行動をとるようになったのは、確か私が卒業する二年前の頃で大正十一年頃だったと記憶しております。翌年には関東大震災が起こつて校舎も甚大な被害を受けたばかりでなく、部員の連中も多かれ少なかれ被害を受けましたので、震災後は当分の間馬どころではなかつたのです。震災後の授業はバラック建の粗末な校舎で講義を受けておりましたが、板張りの廊下を長靴をはいた部員がさつそつとくつぽしていた光景を不思議にうつすらと記憶しておりますので、その年の終り頃には結構活躍していたのではないかと想像されます。

その頃最も印象に残っている仲間は私より二年下の森政雄君で、一度逢いたいと思いつても音信がとれず残念に思っております。恐らく当時の方は覚えておられるでしょうが、森君は非常に熱心に一同の世話、部員間の連絡、外部との折衝など殆ど独りで幹事役を引き受け、馬術部の発展に最も貢献された方だと思えます。部員の数は約十二、三名位で、中学部が六、七名位だったように記憶します。中学部のメンバーでは内田友正君が最も熱心だったように記憶します。

その当時の練習方法は、当時としては非常に恵まれていたのではないかと考えます。私らは騎兵隊の好意で立派な五、六才馬を常に使用することが出来て練習に事欠きませんでした。当時といえども、乗馬にかけてはそれこそ専門家の騎兵が使用している優秀で、しかも充分調教された馬で練習できる機会はその簡単には得られませんでした。

吾々が根城にしたところは、千葉県津田沼市のはずれにある騎兵連隊であつて、当時日本軍の騎兵の精銳が集まつていた処でした。この

騎兵連隊は第十三、十四、十五の三個連隊で編成されていて、そのうちの第十四連隊が特別の取り計らいで青山学院の出入を許してくれました。それで吾々部員は月に二回から三回、土曜から日曜にかけて泊まりがけで出かけたものです。特に夏季休暇中には二週間位の隊内合宿が許され、士官の道場を急場の合宿所にあてがってくれたばかりでなく、士官並の立派な食事が賄われるなど、聯隊が私らに与えてくれた好意は並みならぬものがありました。そうして合宿中には、士官自ら馬場内の基礎訓練、野外練習、遠乗り、水馬練習、障害飛越など軍隊同様の指導を受けましたので上達も早く、しまいには一同の腕前は一流の乗り手になりました。当時の士官で最も親密になつて面倒をみてくれた田村理七中尉は今でも忘れられない方です。

習志野原に通つておりました当時の愉快だつた思い出を二三述べてみましょう。最も印象の深かつたことは合宿中に行はれた水馬訓練で、馬があんなに上手な泳ぎ手だということに初めて気づいたのです。場所は稲毛海岸で、今でこそあまりきれいな所ではありませんが当時は海水も澄んでおり、人もいたつて少なく、思う存分馬と共に海中で楽しんでたものです。部員の中には泳ぎの出来ない者もいた筈だったので、参加者は一人残らず馬と共に海中に飛び込んだのは、あとから考えて驚きました。乗馬に永年の経験をもつておる方がありますが、水馬の経験をもっている方は至つて少ないと思います。真夏には実に楽しいものです。高之台への遠乗りは炎天の下に行われ、帰りは人馬共にへばりました。しかしその日はとんだ拾いものがあつて興を添えてくれました。当日はたまたま高之台で岡田嘉子という女優が映画を撮影していて、馬に乗る場

面に吾らの馬を提供したのを覚えております。撮影が終つてカメラマンが遠乗りした吾ら一行の写真をとつてくれたのですが、どなたか当時の写真も持っている方がありましたらぜひもう一度見たいものです。そのほか野外練習に初めて乗り出た時には、野原の真ん中に何回となくふり落とされましたが、不思議にこんな時には怪我をしないものです。

こんな具合に一通り野訓練を受けた部員は隊内は勿論、野外も自由に乗馬で行動を許され、全く楽しい乗馬の醍醐味を味わい続けることができました。ただ時々吾々を悩ました心配の種は中学部の連中でした。冒険好きの年頃の彼らのことですから、こつそり単独で野外に出かけ、大怪我をして吾々を驚かしたものです。

そのほか最も苦しかったが同時に軍隊から感謝されたことは、寒い十二月に馬の世話を頼まれた時でした。昔兵役のあつた当時、十二月には兵役を終えた兵隊が除隊になり、一月に新しい兵隊が入隊してくるまでの間、手不足で馬は運動不足になるのです。それで馬に運動を与えるため軍隊から応援を頼まれるのです。出来るだけ多くの馬に乗つてくれというのですから、乗りたさ一心に部員一同勇んで出かけたものです。多い時は朝早くから一日に五、六頭乗つたこともありましたが乗つたあとが大変でした。馬の全身にブラシをかけ、足にマッサージをほどこし、蹄の手入れなどでくたくたになつたものですが、誰一人文句もいわず、何日間もやり遂げて軍隊から感謝された時は苦しい思いもすつとんだものです。こんな風にして厩舎に通つていられるうちには、当然乗り心地の良いい、いわゆるウマの合う馬を選ぶ結果になります。可愛がつた馬が覚えていてくれて、歓迎の態度を示してくれるとついなけなしの小使い銭を

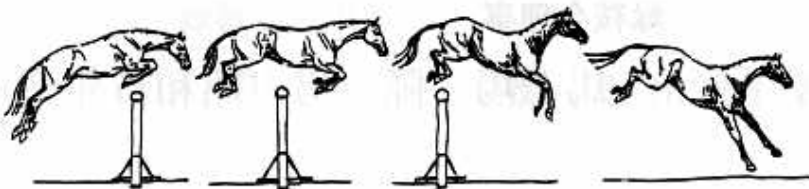
はたいて好物の人参を買ってしまったのです。野外で一休みしている時など、ポケットの人参を探る馬にズボンのバンドをくわえて吊り上げられ、ひどくのめつたり、馬の頸つたまにかじりついたりしている人馬の友情あふれる光景は吾々だけが知る楽しみでした。

私の卒業後（大正十三年）は会社の仕事に追われ、やがて仙台に転勤したので馬術部の連中とは自然と離れましたが、内田友正君が明治神宮で、全国大学・専門学校乗馬大会が催された時、個人競技で入賞された記事を新聞でみて青山学院の馬術部の健在を知ったのが、多分昭和四、五年の頃だったように記憶しております。

今までの記事で想像がつくと思いますが、私らが始めました馬術部の活動ぶりと、現在の緑鞍会の活動ぶりとは全く異なっておりますが、馬を友として理解し合う愛情にはちつとも変わりないと思います。現役の部員の方は、自分らの手で育てているので私らの当時と比較して並大抵の苦勞ではないと想像されます。部員がアルバイトまでして飼料を入手している話を耳にしますが、それだけに馬に対する愛情は深いものがあると思います。鋭敏で利口な動物のことですからきつと皆さんの深い愛情を感じとっていることでしょう。

現在私は乗馬をやめて、もっぱらゴルフを楽しんでおりますが、私の所属している倶楽部は鷹之台カントリー倶楽部なので、そこに行く時は必ず津田沼市と習志野原を通過しますので、その都度昔の楽しかった種々の思い出を懐しむ二重の楽しみを味わっているようなものです。この倶楽部に入会したのも、昔の優しさに心引かれたからでしょう。

最後に緑鞍会がますます発展されんことを希いながら筆をおきます。



## 井上会長を偲んで

新城 直樹（昭28年卒）

井上会長に対する私の印象は良き時代の優雅な生き方をした方という印象が強い。

大正時代、高商部の仲間と中学部の有志を引きつれて習志野の軍隊の馬を駆けさせたのが青山学院馬術部の創立の礎となった話などは、さすがと思われる。

私が井上会長のもとに出入りする様になったのは、会長に就任され六本木のご自分のビルに緑鞍会の事務所として連絡場所を提供されてからである。ご自分のビルということもあり幹事会が終わったあとなどは、その部屋で数々の銘酒等をご馳走になったものである。

ある時、茨城のゴルフ場の食堂で偶然お会いした事がある。その時、「なんだ、君も此処の会員だったのか、それじゃ今度一緒にやろう」といわれたが、そのゴルフ場は少々遠方にあつた為、なかなか一緒に一緒する機会がなかった。暫らくして広尾に移られた頃、そこから電車で行ける相ゴルフに入会された。そして私にも「こっちの方が便利だよ。君もここに変われ」と簡単におっしゃられる。柏ゴルフといえば、名門中の名門、我々一般のものが入りたくても入れないところなのに、井上会長は、三井不動産の役員を呼び捨てにする間柄なので、三井系の柏にはすんなりと入れたわけである。私などはとてもそのようなコネなど持ち合わせていないので入会することは出来ず、時々御供をさせていただくくらい

が関の山であつた。

事はど左様に人生を楽しんでおられた井上会長であるが、晩年は耳も遠くなり、また喉の具合も悪く、話をするのが辛そうなのでお邪魔するのを遠慮していたが、急にお亡くなりになったと聞きびつくりしてしまつた。

お聞きしたところ大往生だつたとのこと、さもありませんと思つている。きつと天国でも気値にお過ごしになられていられる事だろう。

ご冥福をいのります。

## 井上さんのこと



赤嶋 たみこ（昭33年短大卒）

よくゴルフに誘つて下さいました。私と私の仲良しの友人といつても三人で柏へ行きました。少し早目にお迎えに伺つてもマンションの入口に



たつて待つていて下さいました。そしていつも朝食にと、おにぎりやバナナを用意して下さつて、永年主婦をしてきた私達は本当に恐縮したものです。次回は私達でと申し出て、ご用意下さるのが遠足の支度の様で楽しいとおっしゃつて、私達にはさせて下さいませんでした。

自動車の中でいそいそと広げて配つて下さつたのを、昨日の事に思い出します。最後に御一緒した時は、ご自分はハーフでお上りになつて私達に残りのハーフも廻らせて下さいました。その後何度かお誘い下さつたのですが、残りのハーフをお待たせするのが心苦しく、かと言つて私達もハーフで上る事は許して頂けないと判つていましたので、又御一緒にラウンド出来る様になられてからと申し上げている間に、お声が出なくなったり、色々ご不調が重なつてきて、とうとうお別れする事になつてしまいました。

そんなある時、外食が多くていらした井上さんに手作りのお弁当をお届けしました。大そう喜んで下さつて早速お手紙を頂戴しました。料理の全てを一つ一つ数え上げて、それぞれを評して賞めて下さつたお手紙で、感動したのを覚えています。

細やかなお気づかいと優しさで私達を楽しませて下さつた井上さん、長いドライバーを振りまわして飛距離を競われ、勝つた負けたと子供の様にはしゃいで居られた井上さん、本当に楽しくてほのぼのした想い出を沢山、有難うございました。

## 井上会長を偲んで

張間 睦途（昭35年卒）

井上先輩は一言で云つて将に洒脱な人生を全うされ「我が人生に悔いなし」と、自他共に認める誠に羨ましい限りのお人でした。

緑鞍会の重鎮として、長期間会長を務めて頂いた事は、皆様既にご承知の通りですが、この間、馬術部に対して多額の援助をして貰つたことは、感謝に堪えません。又現役、OB共に、我々庶民では到底味あう事の出来ないグルメをどれだけ御馳走になつたか分かりません。女子現役に困まれて、好々爺然とされていたお姿が今でも眼前に浮かんでまいります。お年にしては健喚家で、とても楽しい一時を共に過ごさせて頂いたものです。

遊びに關してもゴルフは可成り晩年までプレイされ、エイジシユートに挑戦をして、達成されたかどうかは記憶に定かでは有りませんが、こちら名門コースを多数持つておられ腕前も相当のものでした。緑鞍会コンペもこのコースで開催させて頂き、楽しい思い出が一杯ございます。人生に於ける華の面を数々体験させて頂いた大変有り難い先輩として決して私の脳裏から消える事の無いお方です。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 井上先輩の思い出

豎村 美恵子（昭35年卒）

十年程も以前に緑鞍会OB会の幹事として御手伝いさせて頂いた時期がございました。当時六本木駅前前の井上会長の事務所を会場場所として提供して下さいました。

夕方から始まる幹事に備えて、会長自らお茶やビールの仕度をして待つていて下さいました。先輩諸氏のニューウェーブなご意見や考え方が、主婦業のおばさんにとつて、大いに刺激的だったことなどを思い出します。

井上会長はいつもご自分の机の前の椅子に腰かけられ、息子や娘程の年の我々に優しい眼差しを向けて下さいました。在部当時には存じ上げなかった先輩方や後輩と、卒業してから仲良くして頂き現在に至っておりますことを心から感謝しております。

六本木の駅前を通りますたびに、コレクションの版画や浮世絵の説明をして下さった井上先輩のあの顔をなつかしく思い出しております。

## 一冊の便箋そして馬とるば…雑感

市原 満佐子（昭十郎妻）

本年五月の井上会長様のご逝去は、門外漢の私にさえ大きな柱を失つ

たような深い寂しさを感じさせられる出来事でした。

私と貴馬術部とおつきあいは、福岡で結婚後上京しました折り、市原と同年代の皆様で会を開いて私どもの結婚を祝って下さった時に始まります。馬を通してつながる方々の友情を羨ましく思つたものでした。

仙台を経て70年に東京に転勤して来ましてから、毎年息子が初乗り会にお供するようになり、皆様にお世話になって参りました。また井上会長様のビルの一室を緑鞍会事務所として使わせて頂き、戦後の品として

馬術部を更に発展拡充していくために助成出来ることは、というような機運が盛り上がり、市原も微力を注いでいた時期がありました。状況も何も解らない私が「馬術部の手紙や書類には、失礼ながら誤字脱字が多い。」と、性分としてつい訂正の手をさしのべる、ものですから、「それなら書いてくれ」ということになり、借越ながら隠れ秘書としてお手伝いさせて頂いていたことがありました。

そんなある日「井上会長から」と言つて、一冊の便箋を渡されました。外国製によくある変形サイズのタイプライター用箋でした。今程コピーの技術が進んでいなかった当時は、半透明の、コピーの出やすい紙を選んで使わねばなりませんでしたが、この用紙は最適だったわけです。

その日街を歩いていて、ずっとお店に入られ、「これを奥さんに」とおっしゃって、下さったことでした。陰で私が出していたのを御存じだったのでしよう。好きとは言え、時にはブツブツ言いながら手伝っていた私にとって、この時のお心通いは深く心にしみました。そして誠心誠意他のために尽くすという井上会長様の姿勢に少しでも習いたいと、自省したものです。

十会長様の魂の安息を心よりお祈り申し上げます。

さて、「亭主の好きな赤烏帽子あかえぼし」と申しますが、残念ながら私は動物が好きではありません。犬猫でも嫌いです。ですから、馬にまたがったこともたった一度しかありません。その上、子育て中「馬ならこつする、ああする。」と往年の一馬術部キャプテンは子どもものしつげの基盤に馬の話ばかり例に上げますので（確かに三才までのしつげの大事な時期は人間も動物も変わらない面があると知りながらも）、「うちの子どもは馬ではありません！」と、何度となく抵抗を試みて参りました。馬流のお蔭でしょうか、反撥からでしょうか、息子は少年期の落語の世界から足を洗い、その後馬ではなく、自分の足で走ったり跳んだりしながら学問し、巣立っていきました。娘は馬にも他のスポーツにも縁薄く、古楽器のリコーダーという素朴な音を楽しみながら、無事成人致しました。いつまでも病気とのつきあいよろしく、家にこもりワープロで遊んでいるのは、私だけというこの頃です。

最近暇に任せ聖書を読んでいて驚いたことがあります。あの優しい目に代表される「馬」が、聖書の中では、どうも善いたとえとして出てこないのです。学問的なことはプロのかたにお任せするとして、私なりに読んだところでは旧約聖書では馬は軍馬として登場し、エジプト・シリア・カナン人などは戦車を馬に引かせて戦ったが、反面イスラエルではヨシユアもダビデも馬の足の筋を切つて廃馬にしたとあります（ヨシユア11・9、サム下8・4）。ソロモン王の時代には、王は厩舎四万を持ち（列王5・6）、また全世界の人々がソロモンの知恵を聞くために、

拝謁を求め（列王10・23）、それぞれ贈り物として金銀器、武器、馬やろばを携えてきたのでその富は栄え、知恵を試そうとしてやつて来たあのシエバの女王も、その知恵と富に舌をまいて帰ったとあります（列10）。このように馬は富と力の象徴、交易の対象でありました。しかし、詩編では

「王の勝利は兵の数によらず  
勇士を救つのも力の強さではない。  
馬は勝利をもたらすみのとはならず  
兵の数によつて救われるものでもない。  
みよ、主は御目を注がれる  
主を畏れる人、主の慈しみを待ち望む人に」  
（詩編33・16-18）

「主は馬の勇ましさを喜ばれるものでもなく  
人の足の速さを望まれるのでもない。  
主のぞまれるのは主を畏れるひと  
主の慈しみを待ち望む人。」  
（詩編147・10-11）  
とうたわれます。

また私が最近深く感じさせられたのは次の箇所です。

「わが主なる神はこう言われた。  
『お前たちは、立ち帰って  
静かにしているならば救われる。  
安らかに信頼していることにこそ力がある』と。

しかし、お前たちはそれを望まなかった。

お前たちは言った。

『そうしてはられない、馬に乗ってにげよう』と。

それゆえ、お前たちは逃げなければならぬ。

また『速い馬に乗ろうと言ったゆえに

あなたたちを追う者は速いであろう。』

……なんと幸いなことが、すべて主を待ち望む人は……」

（イザヤ30・15-21）

何だか現在の受験戦争や、先を争って走る社会への戒めとも思えます。

現代人の私達に「じつと待つ」ことは耐え難く、馬に乗って逃げようとし、それでも落ち着かず速い馬に乗ろうとします。「主は恵みを与えよ

うとして」わたしたちを待つておられるのに、私達にはその声すら聞こ

えないかのようです。私自身この三年の日々を「主は羊飼い、わたしに

は何も欠けることがない（詩編23・1）」という信頼をもって常に感謝

のうちに過ごすことは困難で、焦りばかりがつのります。

一方ろばもまた族長達の時代から重要な財産であり、農耕や、「ろば

に鞍を置き……」（サムエル下17・23ほか）乗用に用いられました。

また馬は平野を一目散に走るにはふさわしいものでしたが、起伏に富む

山地をぬけての戦いには、ろばの方が適していたともあります。

預言者は柔和・謙遜な平和の君をろばに乗る姿で描き、

「見よ、あなたの王が来る。

彼は神に従い、勝利を与えられた者

高ぶることなく、ろばに乗ってくる」

（ゼカリヤ9・9）

そして新約においてイエスはこれを成就され、エルサレムに入場されま  
した。

『見よ、お前の王がお前のところにおいでになる。

柔和な方で、ろばに乗り、

荷を負うろばの子、ろばに乗って。』

（マタイ21・5）

今、世の中すべて賑々しくクリスマスマスII歳末セールに浮かれるこの時、  
実はアドヴェント。この世の王として立派な馬に乗って凱旋されたので  
はなく、粗末な馬小屋に生まれ、ろばに乗って十字架の死・復活へと  
進まれ私達の罪をさがなって下さった神の子イエスを「待つ」時です。

馬に比べ一見か弱いるが、柔和・平和の象徴であると同時に、その昔

山地での戦いには勝利をもたらしたように「高ぶることなく、ろばに乗っ

てくる」との預言通り、真の強さ・自由と救いをもたらした方を自分の

中に迎える時です。

故井上会長様の一文にもある、馬が軍馬として人間の争いの中に巻き  
込まれた時代を心に留め、平和の象徴としての馬と人間、そして人間と  
人間が心を通わせ合うことができるよう、ミッシェンスクールに学び馬  
を愛する皆様と共に、真の平和を創り出す一員として、謙虚に歩みたい  
と願っています。

\* 参考書・新共同訳聖書（日本聖書協会）

聖書辞典（新教出版者編）

# 思い出がいっぱい

## 我が思い出

相良 敏夫（大15年卒）

私が大正十五年、青山学院高等学部英語師範科を卒業して以来六十六年、思い出もある様で無い様で誠にばく然として居ります。

大正十三年、学校当局より正式に体育会馬術部として認められる迄は我々馬術の好き者等は、代々木の井上乘馬練習所へ通ったものでした。その仲間として久保君（現在の札幌の古谷氏）、森君、井上君等々居られました。今旅行中で手元に記録が無いのと、余りの年月を過ぎたので詳細に記憶して居りません。

馬術部が正式に認められてより、毎日曜日市ヶ谷の陸軍士官学校での在京の大学専門学校馬術部の諸君と共に練習に参加する様になりました。又、冬期休暇には習志野の騎兵第十四騎隊で、当時の騎隊長渡辺大佐殿の御厚意に依り、兵舎に合宿練習を許され大いに技を磨いたものでした。特に本郷中尉、秋山少尉の野外騎乗での特訓は相当なものでした。

残念なことには、二人共今度の大戦で戦死された由承りました。この話は馬術部と余り関係が深く無く私事にわたりませんが、私は戦争中某社の代表社員としてヴェトナムの西貢（サイゴン）に五年程滞在して居りました。戦局が危くなつた頃、陸軍の南方総軍より是非通訳になつ

てくれる様依頼があり、今更商売も出来ず依頼に応じました。私が英・仏・ヴェトナムの三ヶ国語が話せるので便利だったのでしよう。官製の通訳官ではそんな器用な人が居なかつた様です。である時、情報将校の某少佐がラオスの奥地バクソンに調査に行く事について、私に是非同行してくれとの極秘依頼がありました。サイゴンから途中迄は自動車を使えますが山地に入ると車は使えず全員乗馬ということになりました。馬は安南馬です。小柄ですけれど気性が荒いので皆手こずつて居りました。私は運よく気性のよい馬を見つけて乗り先頭に立ちましたら、某少佐曰く、「通訳官殿はどこで乗馬を練習なさつたのですか？本職の軍人より上手だ。」とえらくほめられた事がありました。これも馬術部のおかげでしょう。その後、敗戦処理について英軍司令部・仏軍司令部・ヴェトナム独立軍等の通訳として種々のエピソードがありますが、馬術部と関係のない事故、ここで筆をおくこととします。

（二月七日在ホノルル）

## 思い出すことども

阿部 雄三（昭18年卒）

学校を卒業して五十年近くも経つて了つた。

私にとつて学生時代というのは馬術部時代という意味であり、三年半の間馬に明け暮れていた。過に二、三回の練習では物足りず、日曜には必ず市ヶ谷の士官学校予科や朝霞の本科（ともに現在は自衛隊）などへ行った。軍隊は数百頭の馬の運動の為、日曜毎に集まる数十名の学生を

歓迎し、練習が終っても「希望者はもう一鞍乗ってくれ」と別の馬をあてがわれ、合計三時間も絞られたものである。

普段の痩せ馬と違い、肥えて元気のよい馬ばかりで腕も足もたくたであった。

遠乗りは御殿場で農馬を仕立てて長尾トンネルまで往復（約十五キロ）するのが常であった。三年生の時、二年先輩で既に卒業されていた羽坂さん（現在青山学院理事長）が参加され、「暫らく乗っていないので足腰がガタガタだ。後から見ていたら阿部君の尻がびつたり鞍についてるので驚いた。」と言われたのを覚えている。

合宿は鎌倉の湘南乗馬クラブが多かった。厩舎の二階、というより馬房の天井裏に毛布を並べて寝起きし、頭を上げれば夜中でも向い側にいる馬の生態を観察することができ、馬と密着した日々を過ごした。然し何と云っても合宿の最大の収穫は、先輩や同輩との同棲生活を通じて人生哲学を勉強できたことであろう。

試合は東北、関東、明治、青山の四学院戦や関東学生トーナメント等軍隊で行うことが多かったが、関西学院定期戦は乗馬クラブで行った。

四年の時、横浜の小港にある横浜乗馬クラブに関西学生選手権保持者三名を含む関学勢を迎えて之を大破したのは最大の感激であった。

さて、現役の時。我々の時代と違い、あなた方は自馬を十教頭持ち、敬愛する部長や優秀な監督、コーチの方々の立派な指導を受けることができ、真に幸せである。どうか今後もお互いに切磋琢磨し合い、馬術を究め、学業を研いて学校の名譽を昂め、悔いのない学生生活を送ってほしい。学生時代は一度と来ないのだから。

## 「緑蹄会」の頃

秋元 国松（昭32年卒）

私が学生の頃、馬房は現在の体育館の建てられている場所にありましたが、練習風景から、馬の手入れまで、全学生の目に映っていました。第二学部に入學と同時に第二学部馬術部に入部しました。入學当時の練習は一部・二部・短大が一緒でした。二部部員増に伴い、二部は独自の部活動となりました。

卒業後、二部OB会「緑蹄会」を、OB諸兄弟の交流と二部現役の後援を目的として設立し、一部・二部現役の合併と共に、緑鞍会に合併しました。

## 前後十三代との付き合い

三谷 稔（昭44年卒）

私と馬術部との係わりの始めは高等部入學の時からです。入學早々同期の田坂、真木、大塚、杉山、秋田、中野らと共に無活動状態であった同好会を復活しました。当時大学は馬五頭部員四〇名の所帯でした。綱島での練習はほとんど出来ず、一鞍一〇分乗れば良いほうでした。それでも授業前に五時起きし始発電車で綱島に通いました。練習量が足りないので放課後や日曜日東京乗馬で練習をしました。当時一鞍（呼びに来るまで）二〇〇円だったと思います。当時の馬は蹴る、噛む、跳ねる、

引つ掛ける、動かないのいずれかで、なかなかいい馬に乗れませんでした。日曜日には大学二部と一緒に練習していましたので二部の先輩にも可愛がってもらいました（愛の鞭も含めて）。公式戦にも出場し、試合を通じて他校の先輩とも親しくなりました。二年の時、運良く山口国休に真木と共に出場出来二位でした。成績はともかく、その時知り合えた各県の代表とも親しくなり、いまだに付き合いをしています。

大学入学後も綱島通いに明け暮れ、二年の時には家で寝ることより綱島に泊まった回数の方が多かったと思います。その頃は貸与馬から白馬への転換期で新馬の入れ替えも激しく、平木コーチが京都に「転任後はコーチも不在で、試合ではなかなか苦戦しました。その中でも先輩方が調教された雷神、青留など名馬も生まれ、二年の時に関東自馬で優勝出来たのも諸先輩方のおかげだと感謝しております。

又、同期の女子は強く、団体個人とも常に上位を争っており女子の伝統を保っていました。四年生の頃は高等部も強くなり、原野、高橋、斎藤らの活躍でリーグ戦で念願の初優勝を果たし、同好会から馬術部に昇格出来、現在も活躍していることを聞き大変嬉しく思っております。又、二部でも自馬を持ち活躍し始めたのもこの頃でした。

短いような七年間でしたが、七年先輩から六年後輩まで前後十三代の人と知り合えたのも馬術部を通してならはだと感謝しております。今後とも大学、二部、短大、高等部、中等部、初等部をも含め、オール青山を目指し一丸となり「活躍をされることを祈っております。

## 【ゴン】の思い出

山口（佐倉）有美（昭48年卒）

先日、世田ヶ谷美術館へ行く折り、デマンドバスで大蔵病院の所を通り、十数年前の事があざやかに思い出されました。関東女子自馬選手権中障害で、青留（ゴン）（綱島では駄馬、馬事公苑では名馬でした。ゴンを大好きな方、こめんなさい。）で、パラージュを待っている時、専修の白秋号に、ゴンがけつとばされて私ごとばかりを受け、足を幾はりか縫った思い出です。小林君（ピーパー）と、松本（上野）洋子さんに送られ、手術は無事に終り、けがの後挑んだ結果も二位で胸をなでおろしたものです。夢中の時って痛みもあまり感じないのですね。

又乗りたいなあと思う今日この頃です。

## 輝いていた頃

吉田（内山）えり子（昭50年卒）

アー、あの数年は何だったのでしょうか。苦しかったし、ねむかったし、でも何もかも輝いていた頃でした。今でも若いと思っている私。でも卒業して？年にもなろうとしています。今でも皆に会うとあの時のままだからみんな好き。ユーミンの歌が懐かしい様に、あの頃が懐かしい。私にとつて、とても大切な時間だった。今つくづく思う、（辞めないでよかった。）と。

## 学生時代を振り返って

加藤 和代（昭和54年卒）

不安と期待で静岡から東京に行った日からもう十数年経ってしまいました。学生馬術がどんなものか何も知らずに入部して、上級生や同級生はどんな人達だろう、どんな馬がいるのだろうかと思いました。最初は近寄りがたく怖く感じた上級生もとてもかわいがって下さり、何となく一線が感じられた高等部から来た同級生も仲良くしてくれて学生生活を過ごせたと思います。思っていた以上に規則が厳しく練習も作業も大変でしたが、楽しい事やうれしい事もたくさんありました。試合に向けて先輩達の厳しいけれどがんばってほしいという指導と練習、時々遅刻をしてどんな言い訳をしようかと悩んだり、合宿では上級生のつくったおいしい料理に喜んだり、清里や遠野の合宿では自然にかこまれて先輩や同級生、下級生といるんな話をしたり、上級生の車に綱島迄乗せてもらったり、よくドーナツを食べた事も思い出されます。又、コーチの方達にも親身になっていろいろな事を教えていただき、もつとしつかり報いれば良かったなと感じています。せつかくいい馬に乗せていただいたのに馬の能力を出しきれなかったことが多々あり、今振り返って申し訳なく感じています。もつとあの時しつかり乗っていたらと思いつながら、あの頃のことを本当になつかしく又、それでも自分なりに精一杯続けられた

のは先輩方、上級生、同級生そして、下級生の人達のお陰なのだと感じております。そしてめぐりあわせていただけた名馬達、私にとつては素晴らしい又貴重な四年間でした。今でも、その当時可愛がって下さった先輩達が変わりなくつき合っていて下さっています。同級生、下級生とも長いおつき合いです。馬を通じて、人間関係の素晴らしさも一緒に教えて下さいました。

静岡に帰って今もまだ馬を続けておりますが、学生の時とは違い、のんびりと楽しんでおります。淋しく感じるのは、一緒にいるんな話を話し合ったり、馬のことでも話し合える人達が以前のようににはできないということだと思います。貴重な四年間を振り返って、いろんな意味で私は幸せだと感じております。青山学院馬術部の今後のご発展をお祈りしております。

## 青山学院大学馬術部へ、の想い

松本 美紀（昭和60年卒）

この春で青山学院大学馬術部とのつきあいは、十二年目を迎えようとしています。憧れて入った、青山学院の馬術部でした。私が高校生の時に、兄が専修大学の馬術部員で、全日本学生馬術大会で団体総合優勝をし、「その時の部員全員の感動がとても素晴らしかった。」と嬉しそうに話しているのを見て、私もぜひ学生馬術を体験したくて、大学の馬術部に入りました。そうして長い々四年間でしたが、無事卒業をし、田坂先輩のご好意で、馬場の近くの会社に勤めることができました。会社生



活に慣れた頃、再び毎朝馬場に通うようになりました。そしてふっと気づいてみると、私の現役生活よりも長い年月をここで過しています。毎年、後輩も、馬達も変わっていく中で、青山学院の馬術部は存在し続けています。私がいつも思うのは、「色々な時代があつて、様々な人がいて、いろんな馬がいて常に変化するけれども、ひとりひとりの青山学院馬術部への想いは変わらないんじゃないかなあ？」ということなんです。みんな馬が好きか、青山学院が好きか、馬術部が好きで集つてきて、ある時を過し、卒業して品になる。ただ、卒業して馬と触れ合わなくなつてしまつと、「OBと現役」という隔りができ、触れ合いにくくなつてしまつことが、とても寂しく思います。皆、同じ共通点を持つているのに……

自分の時代だけでなく、先輩と後輩とそして馬とつきあつていけたら、もっと素敵な青山学院の馬術部になるのではないのでしょうか？せつかく七十年近い歴史のある馬術部なんですもの、現役はもろろんのこと、みんなで大切にしていきたいと思えます。借越ながら、二十数年の馬術生活の半分近くをここで過してしまつている私の所感とさせて頂きます。

## 日本初女子大生対抗試合

福原 美里（昭31年卒）

一生の中で多くの出会いと別れがあるのは致し方ないといえ、馬術部を通しての貴重な先輩が一人、一人とあの世に立たれお会い出来ないことは、もはや来年遺暦を迎える年になつてしまつた私には心惜しい事

です。私が故井上会長と初めてお話した頃はもう会長のご年齢は六十才位であつたと思われませんが、他界される一年程前にご機嫌伺いにお訪ねし明治屋で食事をご馳走になつた、それがお会いした最後になつてしまつた時まで、私の印象はいつも温厚で特に女性に優しい大先輩として覚えております。もう声が枯れてしまわれ受話器の奥から力サカサカサつと鮮明なお声が聞こえるだけの応答が懐かしく思い出されます。長期間にわたる緑鞍会でのご功績については諸先輩の筆にお任せしてしまつとすると、この他は特記する程の事が思い付きませんので、この際わたくしの馬術部入部の動機と初期の女子部員の戦歴等を久々に書かせて頂きます。

私の馬との出会いは小学校のころ満州の広野で一度だけですが馬の背中に乗せて貰つたのがきっかけになりました。大学に入部した時に教室の黒板の隅に「新入部員歓迎します。馬術部」の文字に満州での乗馬の記憶が重なり、今とは格段の差で薄暗く汚い部屋を訪れ入部の申込みをしました。二年生までは学業主体でしたので、実際に熱心に練習し始めたのは三年の夏休みからでした。当時の東主将の熱心な指導も起因しますが、なんといつても御殿場での遠乗りで野原を初めて駆歩で走りまわつた時の爽快な気分が私の心を捕らえたのです。以後二十八才で自分の会社を作るまでは、乗馬がなによりも楽しみで色々な所へ乗りに行つたものでした。

女子の同期は平木茂子さんと梅本元子さんの二人が四年間一緒でした。次年は女子がいなくて、その次が松居さん小野塚さん達でした。平木さんは男子よりも熱心に練習し女子部員の強力な牽引者でしたが、当時女

子は試合に出して貰えないのを残念とし、彼女が最初に探してきた試合相手が学習院女子でした。日馬連で「日本で初の女子大生による対抗試合でしょう」と言われたこの対抗戦で優勝した時の、抱き合って跳ね回った喜びは、今でも記憶にハッキリと残っています。女子の学習院戦は毎年行われていると存じますが、歴史ある対抗戦として、伝統的に継承して頂きたいものです。当時、学校では馬の頭数が少なく、女性も殆んど練習が出来ませんでしたので、あちこちの乗馬クラブに通って合同練習をさせてもらいました。その後オール・デパート選抜軍との対抗戦、慶応戦、関東女子学生馬術大会、神戸女学院、関東北戦と次々に卒業するまで試合を続けました。想い出はつきません。今でも趣味はと聞かれますと乗馬と答えておりますが、残念ながら多忙でこの数年は全く乗っておりませんが、まだ諦められず、いつの日か乗馬を楽しむ日々を得ようと思いつけています。

ここに故井上会長のご冥福をお祈りすると共に、伝統を引き継ぐ若き現役部員の皆さんのこれからの奮闘による、青山学院馬術部のますますの発展と活躍に熱い声援を送ります。

以上

### 初期の戦歴

一九五四年十月二十三日 学習院戦 六名戦 優勝

(平木、梅本、福原、松居、小野塚、伊藤)

一九五四年十一月二十二日 オール・デパート選抜軍 四名戦

(梅本、福原、松居、小野塚) 優勝

一九五四年 ?月 ?日 慶応戦 四名戦 敗戦

(平木、梅本、福原、松居)

一九五五年三月十三日 関東女子学生馬術大会

第一部 部班馬場馬術 平木茂子 優勝

梅本元子 三位

松居清子 四位

第二部 障害飛越団体競技 青山学院二位

(七校トーナメントで慶応が優勝)

この大会は日経、朝日、毎日の一流新聞に写真入りで報道された。

一九五五年三月三十日 神戸女学院戦 五名戦 優勝

(平木、梅本、福原、松居、小野塚)

六月二十六日 第一回関東女子学生馬術代表選手選抜大

会内種馬場馬術

# 株式会社 太平洋サービス

代表取締役 新城 直樹

昭和28年度卒業



埼玉県秩父市本町 4-23

TEL 0494-22-0169

世界商事株式会社

代表取締役 大鳥<sup>タカ</sup>孝<sup>タネ</sup>子 (昭32年卒)

賞品・記念品等  
の御用命は是非  
SAGARAのユニークな作品を  
—どうぞ



—取扱商品—  
カップ・トロフィー  
楯・メダル・  
バッチ・時計・  
装身具・貴金属製品

株式会社 **相 良**

代表取締役 相良敏夫  
(大正十五年・英師卒)

〒150 東京都渋谷区神宮前6丁目3番9号  
原宿さがらビル  
電話 03-3400-6478

K.K. SAGARA 製作

建 材 部  
総 合 建 築 ・ 土 木 資 材

石 油 部  
昭 和 シ ェ ル 石 油 協 特 約 店

株式会社 **カネハン商店**

千葉県東金市田間峯下1964  
TEL 0475(52)3544  
土 屋 敦(昭和54年卒)



取締役副社長

井上和宣

MARUI CO.LTD.,

MODE	HONTEN/2-12-1 HOKAN CHO OKAYAMA CITY	TEL.0862-52-3401
BOUTIQUE LIVE/LIVE21	2F 187 MONDEN SOJA CITY	TEL.08669-3-8114
VIVRE/VIVRE21	1F 7-6 SAIWAI CHO OKAYAMA CITY	TEL.0862-33-2102
POLKA/POLKA	2F 1084-1 NAKAHARA CHO TAKAHASHI CITY	TEL.0866-22-8455
GRACE	GRACE/2-12-1 HOKAN CHO OKAYAMA CITY	TEL.0862-52-6500

木製建具工事、アルミサッシ工事  
換・内装工事、家具工事

株式会社 **サトナ力建装**

代表取締役 里中郁男(昭和45年卒)

〒170 東京都豊島区駒込 6-34-2

TEL 03-3918-0336

FAX 03-3918-0037

建築のことならなんでもご相談ください //

# (株)コム設計

代表取締役社長 神藤重光 (昭37年卒)

東京都港区新橋 4-31-5

信光ビル

☎ 03-437-0721

# 有限会社 三洋製作所

専務取締役 間明田勝彦

(昭和42年卒)

本社 〒108 港区白金3-11-12

TEL 3441-3042 FAX 3446-1451

第二工場 〒108 港区白金2-2-3

TEL 3441-2284

## 現役より

### 新主将あいさつ

高久 和弘

今年度の主将をやらせて頂くことになり、いかにすればこの重責をこなうことが出来るのか不安だらけですが、前年度の森本さん、小国さん達の良い面を残しつつ、いかにして私達の代の色を出していくかを今後の課題とし、常に前向きに、常に精進してこの馬術部を運営していきたいと思っております。

私は高等部馬術部出身ですが、その頃の大学馬術部は部員数、特に男子部員が少なく、運営がかなり困難な状態でした。現在、人の数の面では男女の比率も半々でいい状態を保っていますので、今後は人の質の面に目を向け、レベルアップをはかっていきたいと思っています。

最後になりましたが、高森部長、六平監督、田中コーチ、現在毎日のように綱島の方へ来て下さる松本美紀さん、そしてOB・OGの方々の常日頃の御助力に感謝すると共に、御指導御鞭撻の程、宜しく願います。



## 韓国・モンゴル遠征記

旧主将 森本 敏正

一九九一年六月、世田谷区馬事公苑で行われた全日本学生選手権。私は一回戦、二回戦を勝ち進み、準決勝まで行きましたが、苦しくも脱落。五、八位決定戦において、六位に人賞。この時点で韓国、モンゴルと二つの海外遠征が決まったのです。

八月八日、韓国に出発、成田から約一時間半。ソウル国際空港に着きました。ここで断りしておきたいのですが、韓国では連戦連敗。大変申し分けありませんでした。というわけであまり試合のことは書きたくないのですが、どうかご勘弁下さい。

韓国で何をしたかという点、主にシヨツピング。とにかく安いのです。みなさんも一度は行って下さい。あと感じたことと言えば、焼肉がおいしいのです。骨付きカルビをハサミで切って無造作に網の上で焼く。焼き上がった肉をキムチで巻いて食べる。これこそ焼肉とキムチの国、韓国なんだと一人感動したものです。いろいろありましたが、十二日の夜、無事に帰国。この日、旅の疲れをいやし、次のモンゴル遠征に備えようと思ったのもつかの間、十三日には日本馬術連盟結団式。その夜は成田のホテルに泊まり、翌朝モンゴルへと立ったのです。

成田からJALに乗り、KATSUMIのIT'S A TIMEを聞きながら北京国際空港へ。ここで驚いたのは、空港内に車はほとんど見られず、

作業員のおじさん達はみんな自転車なのです。滑走路の脇では子供達が駆けまわっているのです。日本では考えられない光景です。空港に降り立って何とも言えない光景を目にした時無事に帰れるのだろうか、心配したものです。

北京からホフホトまでの飛行機の時間も待つこと二時間。飛行機はいつ飛ぶのかと聞いても、グランドスチュワートは英語もしゃべれず、不安だけがつのるばかりでした。定刻より二時間後、飛行機は北京を離れ一路ホフホトへ。飛行機の中では前にカッブルが乗っており、男女とも一週間位風呂に入っていないんじゃないかと思うほどのテカテカした髪の毛、思わず鼻をつまんでしまいそう…。二人は仲良く寄り添って旅を楽しんでいるかのようでした。

私達を乗せたプロペラ機は一時間ほどでホフホトに到着。ここからは送迎バスに乗り、ホテルに着いたのは午後五時。ただ広い部屋にじゅうたんのシミ。広い窓に壊れたトイレ。荷物を整理し、食事をとり食堂へ。料理は味の濃いものか薄いもの。ジュースはぬるく、コップも……。唯一良かったと言えば、メイドさんは綺麗なばかりでした。食事を済ませ、床に就いたのは午後十時。ここでは日が長く、十時といつても夕方五時ぐらいの明るさ。町の人は何もすることがないはずなのに、何故か夜中までウロウロと散歩をしていました。一夜明けて目が覚めたのは午前七時。また気温の変化が激しく、昼間は猛暑でも、朝晩は肌寒いはど冷えこみます。朝食をとり、送迎バスで馬術競技が行われる競技場へ。この日ここホフホトではナダム祭という、年に一度の祭りの開会式のある日でした。私達が競技場に着いて驚いたのは、スタジアムの広さ。一

万人ほど収容できそうなほどのスタンドに、人がギッシリ押し込められているのです。また競技場全体とは言えば、東京ドームの一・五倍位ありそうなのです。私は緊張する性格なので、この万人の観衆の中で競技をするかと思うと、今にも心臓が飛び出るかのような思いだったので。開会式は三時間程で終わり、この後、空手のようなアトラクションや、アーチェリー蒙古相撲などの競技が始まり、この後、私達は競技の打ち合わせ、抽選へと行ったのです。

競技の内容は、一チーム三名戦、一人の選手が同じ馬でコースを二回まわり、その減点数を三人でたして、総減点を出すもの。つまり、関東学生などの二回走行を、三日間に分けて行なうものです。抽選の結果、初日は日大の細野さん（現在獣医学部の五年生）、二日目、明治の山田君（現在二年生）、そして三日目が私、という順番で決定したのです。

参加出場国は日本、中国、モンゴル、タイ、マレーシア、シンガポール、インド、オーストラリア、台湾、韓国、イランの十一か国。つい先日、日本で行なわれたアジア大会に出場した選手も数名いました。試合は翌朝八時半から。私達は試合に備え、十分な睡眠をとりました。

そして試合初日、空は見事に晴れ渡り、一万人の観衆の中、競技が始まりました。この日、細野さんはトータル減点1という成績に終わりましたが、減点0の選手は少なく、大健闘したのです。二日目、山田君は見事減点0、ジャンプオフに出場し、この時点で、個人二位という好成绩でした。そして三日目、私は団体入賞という重いプレッシャーを感じながら、白馬にまたがり、いざ戦場へ。あまりの緊張と、胸の高鳴りにみんなが気付いたのか、今大会主審を務めた、麻布大学のOBである近

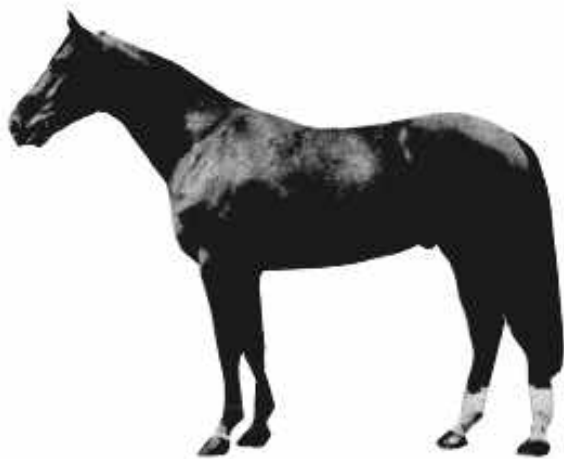


藤さん（通称コンチ）に、「お前はこれを飲んで行け。」と言われ、ビールを飲み干し、入場したのです。帽子をとり、挨拶をすると、大観衆からの拍手。少しいい気分になって、第一障害へと向かったのです。第一障害クリアー、第二障害クリアー、と次々と障害をクリアーし、あつという間の最終障害。観衆も満点かと思ったのか、われんばかりの拍手が沸き起り、私も「しめた」と思った瞬間、拍手と歓声は一気のため息へと変わったのです。私は一走行目一落下してしまったのです。ここで私は団休入賞を逃してしまったと思いました。この時、私は悔しさと恥ずかしさで息がつかまるほど落ち込みました。しかし、みんなの励ましにより、もう残り一回の走行をとにかく満点で帰って来ようと思ったのです。そして開き直ったところで二回目の走行へ。この時、あきらめがついていたのか自分では何とも気楽にコースをまわることが出来たのです。私はコースを難なくクリアー。満点でゴールし、観衆の前で帽子をとり、軽く挨拶。観衆も満点ということわれんばかりの拍手と歓声。なんとも気持ちの良いものでした。しかし、時既に遅しと思いつながら、みんなの所へ行くと、なぜかうれしそうな顔をしているのです。それもそのはず、日本は団体三位に入っていたのです。これは私が第二走行目で、減点で帰ってくれば決まっていたらしいのですが、それを言うと、また緊張してしまつたろうというみんなの心遣いだったのです。私は本当に感激し、感動しました。また個人では、山田君が三位に入賞し、共に喜んだものです。

表彰式は乗馬で行ない、花束と、銅メダルをもらい、本当に満足でした。表彰式の終わった後、記念撮影をし、地元の子供からはサインをせ

がまれる始末。私は日本にやつと一つお土産が出来たと思いつながら、無事帰国してまいりました。というわけでまだまだ書いても書き足りないはど、つるの話はたくさんありますが、このへんで、韓国・モンゴル遠征記を終わらせて頂きます。

多大なる御寄付をして頂いたOB・OG、監督の皆様、また、田中コーチや、その他の方々からも沢山の御寄付を頂きまして、本当にありがとうございます。また、クラブのみんなにもお礼を言わせて頂きます。本当に良い思い出ができました。



## 部員紹介



森本

私が愛車チャッピー（50のバイク）と共にフリーに乗って高知から上京して、もう四年の年月がたとうとしています。

一年生の時にクラブがきつくてガリガリにやせ、栄養失調になってしまい、みなさんに迷惑をかけてしまったのも、今では思い出となっておりません。その後、食生活を充実させ、健康状態も良くなり、馬術の成績の方も三年、四年になるにつれて尻上がりに良くなってきたと思います。夏には海外遠征にも行かせていただき、とても勉強になりました。

今年は主将として、部員全員を引っ張って行く立場だったので気を張ってやってきたつもり

ですが、私の力量不足でうまくいかなかった部分もありました。しかし、私自身満足はいく一年だったと思います。引退まであとわずかですが、全日本学生馬術大会では障害と馬場の両方に出場するので、青学史に残るような成績を修めたいと思います。

小国記



小国

私が、山形の田舎から出て来た小国和紀です。不安と希望を胸に抱き、この大学に入ってからはや四年。この四年間、苦しいこと、つらいことと多々ありましたが、なんとかここまでやってこれたのも監督、OB、コーチの方々の支えがあったからだと思います。そしてなんと云っても、私と同期である森本敏正君のおかげだと思っています。

私は一年生の時、ブルーグラスという馬の馬匹でしたが、二年生の時に売られて行きました。私にとつてこの馬は、「私の四年間を賭けよう。」と思ったほど大切な馬だったので：

こうしてブルーグラスのいなくなってからの三年間は、暗黒かと思いましたが、四年の春に思わぬ馬が私のところに来たのです。その名はブルーサンダー。この馬が私の残り一年を変えたのです。今年の関東学生二回走行は、このブルーサンダーで出場し、二日間トータル減点8という好成绩で帰って来れました。十二月にある全日本学生、この大イベントに私はこの馬で賭けます。

森本記



高久

来年度主将をやらせていただきます、経済学部経済学科三年の高久和弘です。

幼稚園から青学ということをだまっていれば、この背格好、このFigure、そしてこの心遣いから、もしも私が俺みたいのを本当のNice Guyって言うんじゃないかな？ と思ってやまない今日この頃です。（なのに田中さんにひょーひょーとしていたりとか、攻撃的だと言われるのは今一つ納得いかないものがある。）

ところで、担当している馬はサンダー、キンシ、スナイパー、フライデーなどです。ブルーステインガーと私のコンビを見てきつと、以心伝心、一心同体“などの言葉が作られたのかな?とも最近思い始めました。

なにはともあれ、来年からこの馬術部という宮沢総理にも負けないくらい重い荷物をしょって先頭を歩く人間として、これからはもっともつとがんばろうと思っておりますので、なにとぞよろしくお願いいたします。 藤森(香)記



高柳

僕、高柳徹三は、ごはんを食べてもあまり太らない体質です。一年の時から自分のシンボルマークといえる黄色ぶちのメガネがポイントです。みんなに“チツ”チツ”といわれてきたえられながら今にいたっています。今の担当馬はブルージガーとブルーオンワードです。どちらも優秀な馬で、僕がよく面倒をみているので自分のことをとても素直に表現する馬になっ

ています。他人の仕事もよく手助けしてあげることな僕をどうぞ陰から見守っていて下さい。

佐々木記



依田

彼は、依田卓也といえます。国際政治経済学部国際政治学科三年の、馬術部一の秀才です。

国際人を目指しているので英語はペラペラですし、趣味としてパイプオルガンも弾きます。実は家は浅草ですが、網島に下宿しています。家具屋の息子ということもあって、部屋は馬術部の女の子よりきれいです。ハンサムで洗練された非の打ちどころのないボンボンなのです(本人談→真偽のほどは不明)。そんな依田君ですが、ちょっとデリカシーが足りません。下宿の玄關にパンツを干しているのに、そこで女の子を待たせようとするのです。私は悩んでしまいました。が、~~え~~さんは玄關のパンツをのれんのようにしてくぐった事があるそうです。依田君!玄關にパンツを干すのは危険だ!

部活中いつも「おなががすいたよー、死んじゃうよ」と話しかけてくる依田君、短気でおっちょこちょいな依田君、かぎを腰にジャラジャラつけてうるさい依田君、馬匹のランボー、オラシオンと共に馬術部になくならない人です。

山田記



藤森(香)

文学部教育学科三年の藤森香織です。女子責任者と馬具係をやっています。現在私は、サンダー号(ブルーサンダー)とフラッグ号(ブルーフラッグ)の馬匹です。サンダーが一番好きな馬ですが、この間も、ベラスケス号をサンダーと間違えて抱きついてしまいました。私の好きというのはこの程度のもんです。

こんな私ですが、馬への情熱は誰にも負けません。最近サンダーで障害に、フラッグ号(ブルーフラッグ)で馬場の試合に出ています。是非一度応援しに来て下さい。 高久記



佐々木

文学部教育学科三年の佐々木久絵です。主務をやらせてもらっています。担当馬はブルーブラッド号とブルーダイヤモンド号です。この二頭については、馬匹紹介のページを見ていただければわかると思います。二年度は、ブルーブラッド号で都民大会と東都学生の馬場部門で勝たせていただきました。女子自馬の三週間ぐらい前に馬がころんだけをしてしまい、少し休ませましたが、女子自馬ぐらい楽勝だと思ったので、みんなに「停止さえできれば勝てるわ。」と妻語っていました。それで陰でビッグマウスとか言われていたようなので、絶対勝つてやろうと思ったくらい惜しくも二位でした。私にとつては優勝以外二位もヒリも同じなのでとても嬉しいです。話ばかりですが、私は関東学生でとても恐れられています。後輩だけでなく先輩からも恐れられています。先輩からも恐

れられるほどの気の強さが、試合でもいい方向に出ていると思うので、これからもこの調子でがんばりたいと思います。

高柳記



山田

私は文学部日本文学科三年の山田恵里です。クラブでは会計を任されているのでお金のやりくりが得意になってきて、最近では自分でもいい奥さんになれるなと思っています。私の担当馬はブルーシユガー号、通称ベイシーと、ブルーステインガー号、通称キンシです。二人とも私に似てボーとしているので大変かわいいです。特にベイシーは、ほおをなでてやると口をイーッと伸ばしながら喜んでくれるので、ゼツケンなどもつかわいいものをつくってあげてしまいます。最近の悩みといえば、鼻の骨を折ってしまったことです。前にも一回折ったことがあるので、「二度あることは三度ある」の予感が……。

依田記



並木

僕並木洋は、二年生が四人いる中で唯一人の男です。毎日三人のうるさい女共を相手にがんばっています。少しの間休部していたので、久しぶりの部活に新鮮な気持ちで毎日参加しています。けれども、試合があると馬事公苑には行かず、馬場に残ってラッキーすることを好みます。そして暇があると自然に足が馬場へと向いてしまう、クラブをこよなく愛する少年でもあります。綱島グラウンド、ここが僕の家といつても過言ではないでしょう。また、入部したことにより、大きな発見もありました。それは、酒に酔うと高い所に登りたくなる衝動にかられてしまうということです。みなさん、僕と一緒に飲む時は、柱にしばりつけるロープ持参をお願いします。こんな僕ですが、来年度主将としてがんばっていきますので、どうぞよろしくお願いします。

芦田記



加藤

はじめまして、私が国際政治経済学部経営学科二年の加藤幸乃です。通称「ユータン」と呼ばれ皆から親しまれています。(なぜか、馬場内のドブに生息する蛙やネズミにも同様のあだ名がつけられています。)よく人から「お前はたとえ百メートル離れていても走っている姿で分かる。」と言われる程の独特なランニング・フォームを持っています。皆さんが仮に馬事公苑などで、「ダルマ」、「団子」、「満月」、「ピースマーク」などを想像させる姿で手を横に大きくグラインドさせ、足をチョコチョコ、ピョピョピョコ動かし、お尻をプリプリさせて、顔が一見真剣そうであるニヤニヤ走っている姿を見かけたら恐らくそれは私でしょう。皆さんも是非馬事公苑や綱島馬場に私を見物しにいらして下さい。その際には是非一言「ユキノちゃん」と熱い声援をかけていただければこれ幸いと思い、お返しに泣く子どもだまるという

私の十八番の微笑を愛馬ブルースナイパー号、ブルーオンワード号と共にお見せできると思います。

並木記



中山

私の友達の中山陽子ちゃんは、高等部の時から馬術部で頑張っています。

陽子ちゃんは、ブルーマリン(フライデー)やブルジーガー(ジーガー)を一生懸命かわいがり、ニンジンやリンゴや砂糖を、人一倍たくさんあげて馬を自分になつかせようとしているのですが、なぜか仲々なついてくれないのです。本人は、初めの頃よりはなついたよくなことを言っているのですが：  
 こんな陽子ちゃんは、すごく頑張り屋さんなのです。なんとと言っても、愛馬フライデーから一日に四回落馬しても、めげずに？一生懸命練習に励んでいます。  
 彼女は、いつもニコニコ笑っているのですが、

馬に乗ると急に顔が真面目になってしまいます。みなさん、一度馬に乗っている時の顔を見てあげて下さい。鬼の様にこわい顔をしているんですヨ。陽子ちゃんに乗っていると、ところを見かけたら、「スマイル、スマイル」と声を掛けてあげて下さい。

加藤記



芦田

芦田朋子さんは麻布大学付属の淵野辺高校出身で、獣医志望だったらしいのですが、今はなぜか(?)獣医学部がない青山の教育学部になります。小さい頃から横浜乗馬クラブに通っていたそうで、そのためか知り合いも数多く、馬事公苑に行くときまわりから、「朋ちゃん、朋ちゃん」と呼ばれ、みんなに親しまれています。高校在学中は、某テレビ局で有名なあの「南ちゃんを探せ」に登場したこともあるのです。お目々パッチリ、休もホッソリ、お人形さんのように何から何までうらやましい限りなのですが、本人は髪の毛の土が少ない(はつきり言う薄

い)のを気に病んでいて、少しでも抜けるともう大騒ぎです。クラブの仕事をきちんとやらな  
いと気が済まない性格なので、あまり神経を使  
い過ぎると今に大事な髪の毛がゴツソリと抜け



高野

てしまいますヨ、朋ちゃん。

中山記

高野君は僕と同じように一般人試で入学した  
部員で、共に馬歴ありませんでした。入部の  
動機は違うかもしれませんが、何かの縁があつ  
て二人ともこの馬術部に入学したのであります。  
年は彼の方が一つ上で、一年生の中では彼が一  
番上です。いつも笑顔の高野君ですが、けつこ  
うスネやすい奴です。また、いつもニコニコし  
ているので、他の部員の人たちから奇妙に思わ  
れています。そういうところが高野君のいい  
ところだと僕は思います。先輩たちの前ではあ  
まりしゃべらない高野君ですが、同学年の渡辺  
君や僕とかと一緒にいるとおもしろい人です。  
彼と共に四年間がんばっていいこうと思います。



辻本

辻本記

辻本達雄君は、なんと巨人の元木と同じ大阪  
上宮高校から、現役で青山学院大学経済学部  
に入学しました。辻本(つじお)は、とても陽気  
でちよつと東南アジア系のノリを持った青年で  
すが、いつもは調子が良くすつとぼけているこ  
とが多いです。

つじおは、いつも所かまわず得意の大阪弁を  
しゃべりまくっています。つじおが何か大阪弁  
でしゃべる度に、高野が陰でまねをします。い  
つしか一年の男子部員の間で、「やんけ一語」  
が使われるようになりました。「やんけ一語」  
とは、言葉の語尾に「やんけー」とつけるだけ  
です。

つじおが、乗る馬は、ブルーシュガー号です。  
やはり、一般入部という事で乗っている姿は、  
あまりカッコ良くはありません。そんなつじお  
は、「オレは顔もいいし、頭もいいし、足も長

いし、何も言うところ無いやんけー。」と鼻を



渡辺

高くして語っています。

渡辺記

渡辺和之君は、国際政治経済学部国際経済学  
科の一年生です。彼は静岡県の出身でみんなか  
らは「カズ」と呼ばれ、親まれています。彼  
は普段とても無口で、人前ではあまり話さない  
のですが、本当はとてもおもしろい人です。特  
技は人のまねで、馬術部の部員のまねなどをし  
てよく笑わせてくれます。また、部の仕事や作  
業をすくく一生懸命やるし、言われたことをや  
らずにすつとぼける誰かさんとは大違いです。  
また、今年の一年の男子の中で大学に入る前か  
ら馬をやっていたのは彼だけなので、ついつい  
何でも彼に仕事などをまかせてしまうのですが、  
文句一ついわず頑張ってくれています。本当に

頼もしい奴なんですよ。イー。

高野記



藤森(麻)



雨にもマケズ、風にもマケズ、毎日毎日、川崎から頑張つて通つて来るこの真面目な人は、藤森麻由ちゃん。

彼女が、作業にしても、馬に乗るにしても、こんなに一生懸命できるのは、本当の「馬大好き少女だからなのです。」

彼女の試合での主な種目は、障害飛越競技です。いつも競技会では、ブルーライト(オラシオン)にまたがり、軽やかな飛越を見せてくれます。

彼女の目標は、学生チャンピオンになること

だそうです。頑張り屋の彼女ならきっと近い

ちに達成できる

ことでしょう。

北井記

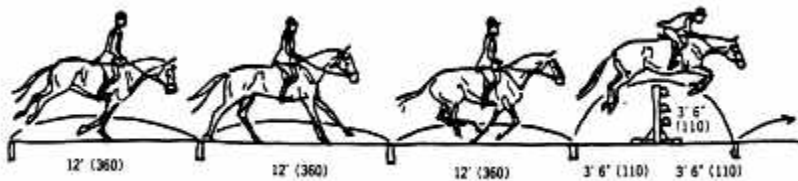


北井

私は経営学部経営学科一年の北井裕子です。

今私はお料理のとっても上手なおばあちゃんと一緒に綱島のマンションに住んでいます。そのマンションは新築なんですけれど、この前の大雨で沈水しそうになったんです。

ところで、私の目標はもちろんオリンピックです。馬場馬術専門ですが、最近障害の才能もあることに気づいてしまいました。でもやっぱり馬場馬術は捨てがたく、B. ThunderやB. Flareに乗って試合で活躍しております。困ったことに時々持病の腰痛に苦しめられるのですがそ



# 都会の中の 小さなオアシス!!

- 全教互指定旅館●県校長会指定旅館●
- 県教組指定旅館●県教職員互助組合指定旅館●
- JR東海ツアーズ他大手旅行社協定●県議会議員指定旅館●



HOTEL  
**クレスト浜松屋**  
HAMAMATSUYA



〒420 静岡市伝馬町6-18  
生活創庫アビタ6F  
TEL (054)252-1181・1182

水車の回る粋な店

**浜松屋**

〒420 静岡市伝馬町3-3 TEL (054)252-0882



**熱く、  
新鮮な  
Energyが、  
原動力。**

**E I K O**  
EIKO SHOJI CO., LTD.

## 馬匹紹介

現在、綱島馬場で活躍している2頭の馬を紹介します。



ブルーサンダー

### ブルーサンダー

みなさんも、もしかしたら？と思った方がいらっしゃるかもしれませんが、実は彼、『パンビ』だったのです。パンビが故に、あのジャンプ力、あのバカっぱしり、そしてあのお尻のはんてんがあるのです。パンビが毎日馬と生活しているわけですから、毎日目から涙を流しているところからも、苦勞していることが分かります。

そんな彼の救いの神はなんととっても馬匹の藤森姉（Kさん）の愛情です。

Kさんは、話しかけるとちゃんと話を最後までじ一つと聞いてくれる彼のことを世界で一番愛しています。彼も毎日のようにお砂糖をくれたり、洋服で遊ばしてくれることと世界で一番愛していると思います。ところで彼のチャームポイントは、とってもお行儀の良いことです。決して、BLUE SUGA.のようには、ロフィオをしたり、BLUEFLAGのように突然驚いて走り出したり、BLUE SNIPER?のように手入れの時にくるったりする事はありません。それどころか肢巻を巻いている時は、はえがいようと決して動いたりしません。

もう一つのチャームポイントは障害を飛ぶ時の姿です。あの雲を分けるような前足！ 他の学校からも大人気です。

### ブルーフラッグ

いつも、厩舎の窓から顔を出して、馬場のすぐとなりの土手を散歩している人をながめている。フラッグ“という馬について紹介します。



ブルーフラッグ

フラッグは、オランダ産のダッチブレッドの鹿毛のセン馬です。

このフラッグが嫌いなのは、装鞍と馬事公苑の角馬場です。

腹帯をしめる時はフラッグも私達も死にものぐるいです。「苦しい、

苦しい。」とさげんでバタバタするフラッグに、「静かにしなさい。」

とどなる私達……。もう本当に装鞍の時は戦いです。

馬手公苑の角馬場での馬場馬術の競技の時は、となりで子供がさわいでいたり、トラックが来たりすると、だんだんと血がさわいで来て、つ

いに大噴火という感じで飛んでいってしまうのです。

このように、フラッグと人馬一休となって競技を終えるということはとても難しいことなのです。

このような特徴のある馬ですが、これからもフラッグと共に生活し、フラッグと共に競技会で活躍したいです。



ブルージェーガー

## ブルージーガー

ブルージーガーは鹿毛のセン馬です。この馬の父、「怪物」のニックネームで知られるあのハイセイコーは大井で6戦全勝の後、中央入りしさらに4連勝で皐月賞（GI）を制します。しかし、その後の日本ダービーでは圧倒的一番人気に支持されながら3着、菊花賞でもゴール前、タケホープに差され2着、以後10戦して3勝と成績は今一つでしたが、逆に人気上がる一方で国民的アイドルホースとなります。母のジーガーレックスの父は、我が国でリーディングサイヤーになったこともあるパーソロンで史上最強とうたわれた、あのシンボリルドルフの父としても有名です。このように一流の血筋を受け継いでいるジーガーの良さは何といてもタフであることです。とても素直な性格で乗りやすく、乗り手の扶助にすつと反応するといつてもいい馬だけに、練習馬として酷使されることもしばしばあるのですが、彼はいつでも一生懸命耐え続けひたすら走り続けているのです。そんなひたむきな馬と5年間共にがんばっていきたいと思います。

## ブルーシュガー

僕が初めてこの馬場を訪れた時に、馬が思ったよりたくさんいた事に驚きました。入部してからもう一年ほど立ち、去っていく馬もあれば、新しくやってくる馬もいて、今では馬の数も12頭になりました。その12頭の中に一頭だけいる芦毛の馬がブルーシュガーです。初めのころはなかなか馬の名前と顔が一致せず、戸惑いましたが、このブルーシュガー



ブルーシュガー

だけは、僕は一番最初に覚えました。馬体は真っ白で、いわゆる「白馬」って感じがします。縁があつて、僕もこの馬の担当になったわけです。やっぱり練習でもこの馬に乗ることが多いです。

落馬すると腹が立つて馬にやつ当りすることもありますが、最近は落馬にも慣れて、怒る気もなくなり、こいつにふり落とされずにしっかりとまっついていようという気が起こってきます。

試合には一回出させてもらいましたが、その時はベイシー（愛

称)で出たのではなかったの、早く自分の馬匹で出たいです。馬匹はまた変わるかもしれませんが、とりあえず今のところは、このベイシーと一緒に年間がんばって行こうと思います。



ブルーライト

## ブルーライト

黒鹿毛なのに、なぜか緑の良く似合う、オラシオンことブルーライトです。この馬は本当に緑が良く似合っつて無口や引き手、パンテージ、ゼッケン、メッシュと全部緑なのです。

去年は、スーパーホースだとか満点馬だとか言われたのですが、今年なぜか調子がくずれ、満点でゴールしたのは、数えるくらいです。なぜかという、病気が発生するのです。馬事公苑のゴールのところの右回転で今年に入ってから、急に曲がらなくなっつてしまっ、外へ外へ行こうとするようになってしまいました。この病気が一回出たら、後の試合は必ずと言っつていくくらい毎日病気が発生するのです。この病気がなければ、本当にいい馬だと思っつのですが……。

この馬は、練習では動くことが嫌なのか、すごく重たくて、仲々動いてくれません。背中の上で、どれだけ人間がけつても、あばれることもなく、ノラリクラーと言っつたように歩きます。そのため、馬のお腹に拍車きずがつくことがたまに(??)あります。

でも、ボーツとしていてかわいい馬なんですヨ。

## ブルーマリン

今年馬の出入りが多く、とうとう私が一番の古株になってしまいました。「天才といえば、もう」おばさんと呼ばれてもおかしくはない年ですが、少なくとも外見と心はまだまだ若い。女の子のつもりの私です。競技場に行けば、会う人みんなが「カワイイ」とはめてくれるし、



ブルーマリーン

ブルーマリーンという試合名も素敵だと思いませんか？自分自身、すごく気に入っているんですよ。でも、こんな私にも幾つかの欠点があります。まずは、いやしい程の「食い気」。色気は充分ある方だと自分では思っています。それにも増して食い気！なのです。食べ物らしきものが視界に入ると、もう前がきせずにはいられません。それが甘いものなら、なおさらしつこくせがんでしまいます。こういう点は、人間の女の子と

ちつとも変わらないのデス。次は、極度に「恐がり」なところ。普通の障害はパンパン飛べるけれど、少しでも違うのだと、乗り手に気合いを入れてもらわない限り、恐くて飛ばません。馬運車に一番最初に乗るのも恐くて、ついそっぽしてしまいます。競技場でも、まわりに馬（特に青山の馬）がいなくなると急に不安になって、大声で泣いてしまうので、よそのヒンシユクをかけています。そうは言っても、試合での実績には自慢できるものがあるので、そこら辺は割りびいてみて下さい。ただ、好不調の波が激しく、最近はどういうわけだか試合に出ても気分が乗らず、乗り手泣かせの「反抗失権が続いているので、そろそろ本腰を入れよう」と思っています。青山の名花をみなさん末長く応援して下さいね。

### ブルースティンガー

初代馬匹は箭内裕二郎（平成2年卒）、現在は高久和弘（済3）、山田恵里（日3）がOGの松本美紀さんと共にこの馬に乗っています。本名はビゼンキンシ、競馬のゲートの中で立ち上がるといふ荒技をこなし、競馬界を追い出されてきた馬です。障害馬としてなかなか非凡な力を持つていますが、歩幅が青山の中で一番大きい為、ジムナスティック練習は大変で馬匹の二人は苦労してやっております。馬匹の「大変気」に入っていて、新しく作ったジャンパーにもこの馬の名前を入れてます。一方、「ですが馬事公苑で引き馬の最中、足を踏まれ、つめをはがす」といふ惨事に見舞われ、新人戦、関東を棄権させられました。本人は口にごそ出ませんが、あまりこの馬を信用していないようです。



ブルースティンガー

昭和六十一年、五月十六日生の黒鹿毛、六才です。生まれは青森県で、父はフランスの凱旋門賞優勝馬のラインゴールド、母はアメリカからの輸入馬という血統の持ち主です。障害を飛ぶ様はまるで蛙を背伸びさせたような姿ですが、ジャンプ力はなかなかのものです。九十一年度の関東学生障害飛越での第一走目も一反抗で完走するなど、将来の楽しみみな若馬です。美紀さんと共に二人で頑張っていますので、この馬に注目し

ていて下さい。

## ブルーブラッド

ブルーブラッド号は別名ベラスケス。ベラの愛称でみんなから恐れられています。あれ?変な日本語になってしまいましたが、何故恐れられているかと言うと、彼は少々気性が荒く、喫んだり蹴ったりして愛情表現をしてくれるからです。ベラは、馬場馬術を専門とする馬で、わが部に来て3年。その間大きな試合に数多く出場し、優秀な成績を修めてきました。先日行われた関東学生馬術女子競技大会でも、二位という輝かしい成績を修めました。彼の性格に馬場馬術という種目があっているようです。どんなに長く、きつい練習にも粘り強く耐え、本番になると

“僕の演技をみんな見てくれ”と言わんばかりにダイナミックな演技をしてくれれます。私生活での彼は、前にも書いたように喫む、蹴るなどの行為により、人々から恐れられ友達が少ないかわいそうな馬ちゃんです。唯一かわいがってくれるのは馬匹の二人だけじゃないかな?そのせいか自分の部屋に入ると壁際に立ち、いじけています。馬房も一番奥の暗くて風通しの悪い場所。これじゃあ根暗にもなるよね。しかし、そんな彼は今や馬場馬術部門でのわが部の看板馬であります。今後目をみはるような活躍をしてくれることでしょう。





ブルーブラッド

### ブルーダイヤモンド

ブルーダイヤモンド（旧ダイヤモンド・ロ・バナマ）はオーストラリア産十二才の古馬で、通称バナマです。バナマはとても頭が良く、今まで馬事公苑の馬房から三回ほど脱房をくり返しました。脱房をしたからといって逃げ出してしまふ事もなく、付近でウロウロしているだけで悪



ブルーダイヤモンド

い事もしません。

この馬は、幼い頃から乗馬用として育てられたので、嫌いな障害もな  
く素直でおとなしい優等生です。

特技は障害飛越は別として、口でオナラのような音を鳴らす事が出来  
ます。晴れた気持ちの良い日などに手入れをしていると、「プー」と口  
で音を鳴らしています。性格はとてもおとなしいのですが、ちょっと気



分屋で、ペロペロと手をなめていたかと思つと、いきなり耳をふせて怒りだし歯をムキ出しにして咬みついできます（綱島に来て間も無いので、ちよつと神経質になつてゐるのかも？）。

最近は何をとつた為に足腰も少し弱くなつてしまい、たくさんの愛情を注いであげないと壊れてしまいそうな気がして心配です。私からだけでなく多くの人の愛情を受けて、今まで以上の成績を期待したいと思つます。

## ブルーランボー

ブルーランボー号は、海のむこうのカナダからはるばるやつて来て、去年の三月にわが部に人厭しました。その愛くるしい眼差しは、誰をも魅了します。もちろんみんなの人気者です。馬事公苑では、他大学の人からも「マンボー」という愛称で親しまれています。そんな彼はまだ七歳という若さで、東京やアジア大会などの国際試合に出場し外国人選手を背に活躍しています。その雄姿、私はほれほれしますが、「空飛ぶ怪獣」又は「空飛ぶドラムカン」という声もちらはら：確かに少々太めなのは認めます。だけど彼、最近ダイエットしてスリムになつたはずなのに?!この少し太つちよな所も彼のチャームポイントの一つなので、すから。そんなかわいい彼ですが、一つだけ許せない欠点があります。それは、自分の飼桶の中に見事ボロを落とし入れるという荒技です。その後どうするかと言いますと、何を考えてかそれをバクバクと食べてしまつなんと経済的な馬なのです。馬匹の私はそんな彼に毎朝ほはすり



ブルーランボー

して朝のごあいさつをしています。このくせさえなければ、彼は非のうちどころのない名馬と言えるでしょう。そんな彼は青学の障害馬として活躍が期待される一頭です。みなさんどうぞよろしくお願ひします。



ブルーオンワード

## ブルーオンワード

競走馬時代の競走名はオンワードミズリ、乗馬での登録馬名はブルーオンワードでセン7オで鹿毛の馬です。競走馬時代の成績は1勝を上げました。重賞、新潟記念（G）にも出走し第四コーナーまで先頭でしたが4着と敗れてしまいました。でも、5勝というのは青学に来た

馬の中では段違いの成績で障害を飛ばしてもバネの違いを見せています。平成2年4月に来たころは気性が子供で喫んだり、けつたり、乗ればねたりあばれたりでしたがここへ来てやっと大人になってきました。試合でもおとなしくなつてきてこれからの期待No.1の馬です。

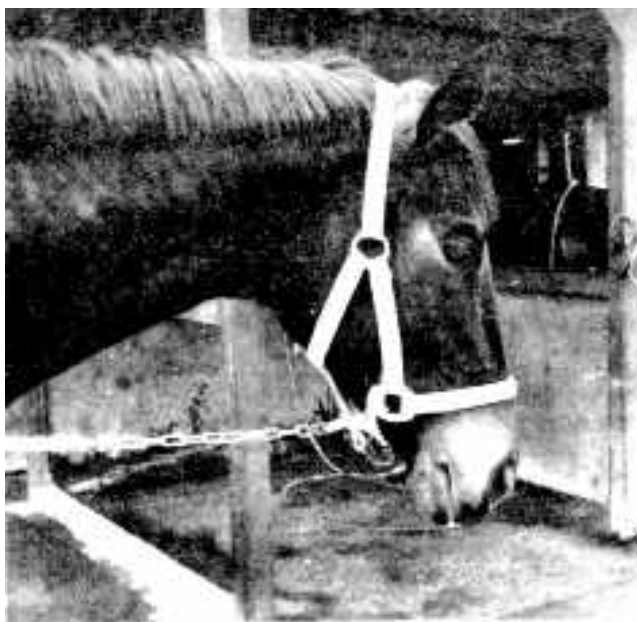
この馬の父は、ピットカーンで母はオンワードグリタです。妹オンワードタマと弟オンワードボルドーが現在10歳で新馬初戦、2戦目とも一番人気に推されました。結果は惜しくも3度とも3着でしたが、兄以上の活躍が期待できそうな馬です。ついでに兄同様青学に来ることも期待しています。

この馬は来たころ、2、3カ月で出されてしまうと言われていましたが前コーチの松本先生の調教のおかげで試合にも出られるようになりました。91年度は5試合に出てそこそこの成績をおさめました。障害に向かったら人間が変なことをしない限り絶対止まることのない馬ですが、口向きが悪いのが難点でそれがなおれば青学の看板馬になることは間違いありません。これからはこの馬に注目して下さい。

## ブルースナイパー

ブルースナイパー号は、OBの鈴木さんがグリーンフィールドE・Tに預けておられた馬を御厚意により今年の夏に当馬術部に寄贈していただいた六才の女の子の馬で、普段はスナイパーと呼ばれ麻布大学のJ・スナイパーの真似をしてB・スナイパーと呼ぶ人もいます。

性格はと言えば少し人見知りする所があるようです。朝などに馬房に



ブルースナイパー

入るうとすると、寝起きの顔を見られるのが恥ずがしいらしく、くるつとつじろを向いて「見ないで」と言わんばかりに、おしりを向けて自分の部屋から押し出そうとし、時には自慢の後ろ足で見事な両足キックを披露する時もあります。また、周囲の環境の変化に対して敏感で、クラブの中でも少し馬房の位置を変えただけで、緊張したりイライラしたりする時があり、馬事公苑に行くときより目立ちます。

また、いつも馬房の所で顔やひざ、球節の下などに傷をつくるのですが、どつやつて傷をつくっているのか見当がつかず、また見た人もないので未だに謎につつまれています。

また、少しだらしない所があつて、蹄洗所などに入るといつもわくに休を押しつけて寄り掛かっています。

スナイパーは、女の子なので馬に対して強い、荒い扶助を、時にはみに対して使つと、だんだんいらいらしてきて走り出してしましますし、強引に手で馬を回転させようとすると曲がりきれずに止まってしまつので、その所が難しい馬です。

けれども、大変能力のある馬なので、これからどんどん競技で期待することのできる馬だろうと思います。

# 1991年度馬術部試合結果報告

( ' 91年4月 - 12月 )

大会・競技名、開催日		出場者(馬)名	順位
第28回東都大学馬術大会 4/13~14	女子障害飛越競技	藤 森 香 織 (B. MARINE)	1
		佐々木 久 絵 (B. IMPULSE)	8
第16回東京都馬術大会 4/27	L級クラス障害飛越競技	渡 辺 和 之 (B. MARINE)	9
	六甲障害飛越競技	小 国 和 紀 (8. MARINEE)	5
		依 田 貞 也 (B. FLAG)	7
第44回都民体育大会馬術競技 5/18~19	婦人馬場馬術競技	佐々木 久 絵 (B. BLOOD)	1
	"	北 井 裕 子 (B. FLAG)	5
	ジムカーナ	依 田 卓 也 (B. MARINE)	3
	婦人障害飛越競技	加 藤 幸 乃 (B. THUNDER)	4
	男子馬場馬術競技	森 本 敏 正 (B. FLAG)	5
第4回ビギナズホースの 5/18	上級障害飛越競技	高 柳 徹 三 (B. SUGAR)	6
第63回関東学生馬術選手権大会 5/23~25		森 本 敏 正	13
第35回関東学生馬術女子選手権大会 "		藤 森 香 織	3
		佐々木 久 絵	4
第26回関東学生障害飛越競技大会 6/12~13		森 本 敏 正 (B. RAMBO)	35
		小 国 和 紀 (B. THUNDER)	21
		高 久 和 弘 (8. STINGER)	
		依 田 卓 也 (B. FLAG)	
		団 体	8

第26回関東学生馬場馬術競技大会 6 / 14		森本敏正 (B. SALAD)	7
		佐々木久絵 (B. BLOOD)	9
		藤森香織 (B. FLAG)	36
		団体	8
第17回ユドラ号記念馬術大会 6 / 22 - 23	F.E.I. ジュニア個人競技	森本敏正 (B. SALAD)	3
	" 団体競技	森本敏正 (B. SALAD)	1
		佐々木久絵 (B. BLOOD)	3
		加藤幸乃 (B. SALAD)	1
		北井裕子 (B. BLOOD)	2
第63回全日本学生馬術選手権大会 6 / 29 ~ 30		森本敏正 (貸与馬鞍)	6
第27回全日本学生馬術女子選手権大会 6 / 29 ~ 30		佐々木久絵 (貸与馬鞍)	4
第12回キャロットステークス 9 / - 14 - 15	小障害飛越競技	高柳徹三 (B. FIRE)	7
第26回オリンピック記念 馬術大会10 / 4 - 6	アマゾングランプリ	藤森香織 (B. THUNDER)	2
第14回全日本学生賞典障害飛越競技大会12 / 10 - 11		渡辺和之 (B. DIAMOND)	27
		森本敏正 (B. ONWARD)	49
		小国和紀 (B. THUNDER)	21
第34回全日本学生馬場馬術競技大会 12 / 12		藤森香織 (B. FLAG)	28
		佐々木久絵 (B. BLOOD)	17
		森本敏正 (B. SALAD)	18


# 1991年度活動報告

( '91年4月～12月 )

4 月	6 (土) ~ 7日 (日) 13 (土) ~ 14日 (日) 27 (土) ~ 28日 (日)	第17回トキノアラシ号記念馬術大会 第28回国東都大学馬術大会 第16回東京都馬術大会
5 月	16 (木) 18 (土) ~ 19日 (日) 18 (土) 21 (火) 23 (木) ~ 25日 (土)	故井上恒春緑鞍全会長ご葬儀 第44回都民休青大会馬術競技大会 第4回ビギナーズ・ホース・ショウ 新入年数迎会 第63回関東学生馬術選手権大会 第35回関東学生馬術女子選手権大会
6 月	12 (水) ~ 13日 (木) 14 (金) 22 (土) 22 (土) ~ 23日 (日) 29 (土) ~ 30日 (日)	第26回関東学生障害飛越競技大会 第26回関東学生馬術競技大会 緑鞍会総会 第17回ユドラ号記念馬術大会 第63回全日本学生馬術選手権大会 第27回全日本学生馬術女子選手権大会
9 月	1 (日) ~ 5日 (木) 7 (土) ~ 8日 (日) 14 (土) ~ 15日 (日)	夏期合宿 (於・網島) 第16回スナーフェル号記念馬術大会 第12回キャロットステーキス
10 月	15 (土) ~ 6日 (日) 19 (土) ~ 20日 (日)	第26回オリンピック記念馬術大会 第29回関東学生馬術女子競技大会
11月	7 (木) ~ 8日 (金)	争覇戦
12月	7 (土) 10 (火) ~ 12日 (木) 20 (金) ~ 22日 (日)	納会 第41回全日本学生障害飛越競技大会 第34回全日本学生馬場馬術競技大会 第43回全日本馬場馬術大会

# 総合システム販売 オフィス家具と保管設備



 **HIKARI** 空間をデザインする 株式会社 光

本 社	〒135 東京都江東区枝川2-4-14	TEL03-3646-7151/FAX03-3649-1263
中央営業所	〒135 東京都江東区本郷2-7-15第一ビル別棟1F	TEL03-5245-0771/FAX03-5245-0770
東 京 支 所	〒135 東京都江東区枝川2-4-14	TEL03-3646-7154/FAX03-3649-1263
船橋営業所	〒273 千葉県船橋市丸山2-3-11	TEL0474-36-3881/FAX0474-30-3885
横浜営業所	〒232 神奈川県横浜市南区宮元町1-13-3-201	TEL045-716-6656/FAX045-716-0697
岩槻営業所	〒339 埼玉県岩槻市安町1-1-7	TEL049-757-1861/FAX049-757-1919
八王子営業所	〒191 東京都八王子市多摩平7-23-1	TEL0425-82-3383/FAX0425-82-3302
南 光 野 馬	〒379-21 群馬県前橋市野中町156-14	TEL0272-63-1716/FAX0272-63-1715

代表取締役  
**福原美里**  
(昭和31年卒)

北海道 オホーツク圏で 躍進する  
チェーンストア **イチワ**



大型4号店 売場面積800坪 **ベアーズ**  
1993年3月 小泉店 開設



緑 店 | 清見 店 | 留辺菜店 | 北光 店 | 高栄 店 | 青葉 店  
**イチワ**チェン / **アイマート** 西部店 / **ディリークイン**  
/ イチワ商事 / ディリーフーズ / わいわい亭

株式会社 **イチワ** 北見市卸町3-3-3 ☎0157(36)5121

代表取締役 社 長 渡 辺 充  
代表取締役 副社長 那 須 堯 雄  
代表取締役 専 務 渡 辺 友 則



## 騎乗日誌より

4月18日(木)

今日も高校生の朝練がありました。荘村さん、小泉さんも来て作業を手伝ってくれました。

4月28日(日)

晴れて21才おめでとつー！  
今日はHISAKO'S Birthday  
だ!!..

4月1日(月)

今日の落馬者...高橋(良) B・SUGAR  
にて2回!!今日の落馬者(ベイシー)  
は馬場の中をそれはそれは元気に走りまわ  
りましたとき。

4月20日(土)

今日、カズ(一年渡辺)がハトを生けどつ  
た。2、3日前から馬場内をいばっていた  
ハトだ。でも足をひもでしばって飛ばすな  
んで...。けっこみんな楽しんでたな...

6月8日(土)

三笠王にて2落馬。だれが?恥ず  
かしながら高久さんです。

4月13日(土)

高校1年生の女の子が一人見学にきました。  
今年は何人入部してくれるのでしょうか。  
あとからさらに2人来ました。すごい。  
佐々木さんおめでとつございます。  
明日もみなさんがんばって下さい。

4月21日(日)

DAISY・NEEDS 優秀馬匹+

4月22日(月)

今日は異様な早さで終わった。

7月2日(火)

脱房

4月14日(日)

藤森さんおめでとつございます。  
FRIDAYも! 皆さん、お疲れ様でした。

4月24日(水)

新入生の高野君と辻本君が来ました。  
2人ともすでに入部決定です。次は土曜日  
に来る予定です。

7月4日(木)

脱房2回!

7月11日(木)

今日の落馬者：森本さん、小国さん。  
競馬くん、おぬしなかなかやるな！

スナイパー入厩

7月26日(金)

花火を見てパナマ大あはれ。

8月11日(日)

今日の落馬者：高柳 フラッグ号にて。

7月12日(金)

ベイシーが練習中転んで、何メートルかをそのままズルズル歩きました。横に倒れて下敷きになるかと思いましたが、恐かったです。屋根にホースをつないで、きつとこれからは少しずしくなるよ〜ん。

7月31日(水)

地獄の一日だった。

8月1日(木)

悪夢の一日だった。

8月18日(日)

ミズエボロを見ましたが異状なしです。でも虫とはどういうものなのかわかりませんでした。(藤森麻)  
虫とは

7月16日(火)

並木、洗蹄場の屋根壊す。

8月2日(金)

最悪の一日だった。



こっぴつです。

7月17日(水)

ドブそうじやりました。(高久)それはいやつと言っほどいい天気の日のことでした。

8月3日(土)

奇妙な一日だった。

9月12日(水)

今日の落馬者：森本さん。  
次の絵のとおりです。(山田作)

7月20日(土)

脱房にもつあのペンチは目じゃない!!

8月4日(日)

疲れた一日だった。

9月14日(金)

今日の落馬者：中山2回！FRIDAY森本さんにスパーマンみたいだったと言われて大空を飛べた。クスン！

7月21日(日)

8月6日(火)

今日の落馬者：高柳 キンシ号にて。



# イチロ



# ベアーズ

緑 店 | 清見店 | 留辺菜店 | 北光店 | 高栄店 | 青葉  
 イチロチェン / アイマート 西部店 / デイリークイン  
 / イチワ商事 / ディリーフーズ / わいわい亭

株式会社 **イチロ** 北見市卸町3-3-3 ☎0157(36)511

代表取締役 社長 渡辺 充

10月2日(水)

タフだった辻本もついに力尽きた。

近の昇装はおかしいです。少し。(昔からおかしいです。昇辻本)

10月3日(木)

今日の午後当番は中山になっていましたが馬場に着的いたらすでに高柳さんが作業を全部やって下さっていました。中山がやったのは飼い付けだけでした。高柳さん本当にすみませんでした。どうもありがとございました。

10月9日(水)

今日も雨じゃった。昨日も雨じゃった。おととも雨じゃった。明日も雨じゃる。このところずっと森本さんの特訓です。今日も森本さんの練習でした。2日休馬の後だし、今までやったことのないようなことを練習するのですごく恐かったです。顔が硬直！練習中は森本さんのこともすごく恐いです。ゴメンナサイ!! でもこの先もがんばりますのでよろしくお願いします。

10月4日(金)

今朝、ベラが横になっているのを初めて見ました。かわいかった。ジーガーの両後脚がゾウの足のようにはれていた。(サリーちゃんの足よりもっとヒドイ) 水冷30分しました。

(中山)

10月11日(金)

台風21号到来。

10月5日(土)

額ちゃん(昇装)に乗っている時、急に前に進まなくなると、後退したかと思っただけから突然寝た。額ちゃんもビックリ。私(山田)もビックリ。みんなもどよめいた。最

10月16日(水)

高久さん スイマセン。今日もフライデーから落ちました。バツテンをやっていて、4回もボチボチ落ちました。本当にすみませんでした。(中山)

辻本がベイシーから回落ちしました。でも今まで以上にベイシーに愛着心がわきました。4年間馬匹でいたいです。(高野)

10月21日(月)

辻本は最近なぜか腰に手をあて、すぐ目をはそめる。

11月4日(月)

サンダー、またまたまた脱馬場!むちゃむちゃついた。(高野)

11月15日(金)

ベイシーからださい落ち方をしてしまった。中山に笑われてしまった。(高柳)笑ってません。驚いただけです。(中山)

11月16日(土)

本日の落馬者発表!  
藤田(ベイシー)

和(渡辺)(ランボー)、首の上に乗ってしまいました。ランボーの首平気?小川(フイガ口)走ってしまいました。  
並木(キンシ)

11月30日(土)

サンダー 脱馬場!!またもやられた。サッカー場、ラグビー場制覇した。

12月2日(月)

並木落馬。辻雄(辻本)落馬。またも愛馬ベイシーから。

12月10日(火)

全日 第一走行員、サンダー満足。

1月22日(木)

テストが……。レポートが……。



## 編集後記

いななき第十三号は、さまざまな理由のために第十二号の発刊より七年振りのものとなってしまいました。何しろ『いななき』の存在を知らない私たちであったため、元来学生で作るべきものであるにもかかわらず、今回は、結果的にはほとんど品の方々の御指導、御協力に頼ってしまうこととなりました。みなさまに心からお礼申し上げます。

特に広告をいただいた方々、寄付して下さった方々、編集を手伝って下さった方々の御協力がなければ作れなかったことを思うと感謝の念でいっぱいです。本当にありがとうございます。

また、本誌刊行にあたり、何ぶん不慣れのためみな様に失礼なことがありましたことをお詫び申し上げます。

今回の経験を生かし、来年度はなお一層の内容の充実を計る予定でありますので、またその時になりましたら、ご協力お願い致します。みな様の築かれた馬術部の現状が少しでも御理解していただければ幸いです。これからも学校、競技などと一層向上できるように努力いたしていくつもりでありますのでますますの御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

「いななき」編集現役委員一同

### 非 売 品

#### いななき 第13号

- 井上恒春前緑鞍会会長を偲んで -

1992年5月22日発行

発行者 青山学院大学体育会馬術部・緑鞍会  
住所 神奈川県横浜市港北区綱島上町1-1〒223  
電話 (045) 543-9339

印刷所 有限会社 創研印刷  
住所 東京都文京区本郷1-18-3 〒113  
電話 (03) 3813-9454



お酒は20歳を過ぎてから。



うまさは、  
五味の調和が生む。



甘・酸・辛・苦・渋の  
絶妙な交響。酒、白鶴。

清酒 白鶴

上撰F-141(純米)280ml / 上撰F-142(純米大吟醸)280ml(純米大吟醸)

白鶴酒造株式会社 東京支店 東京都中央区銀座5丁目2番5号 電話 03(3)541-0721 昭和37年度卒業 高倉 彰